愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金参錢　一ケ月金六錢　半年分参拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區（牛ケ淵公園）　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

社說

同情（一）

人の生れは偶然なり、決して生れの如何に由りて、人は上下すべきものにあらず。大名の子と生れ、乞食の子と生るゝも、生れた本人の知つた事にあらざれば、何も本人の手柄とも、恥ともなるものにあらず、手柄とか恥とかいふことは、本人が成長して責任をもつて行へることにあるものにて、無我無宙で此世に出て來れる赤兒にあるものにあらず。されば良家の子なりとて威張るの謂れなく、貧兒なりとて、賤むの理窟なく、子供はすべて平等にして、上下あるべからず、從て子供の言葉は對等なるべく、如何なる身分の子供も、決して横柄なる口の利き方をなすべきものにあらざる也、中には言葉などは何うでもよいといふ人あらんも、決して然らず、横柄なる物言ひをすれば、相手を相手とも思はず、向ふが困つても苦しんでも、平氣にて、同情といふものは起らぬなり。平等對等の考が、頭にあつてこそ、始めて人の難儀が氣の毒となり。出來れば助けたくなるものなり。されば子供を育つるには、幼時より此考を頭に浸み込ますこと肝要なり。

次に人の豪らきと、豪らくなきとは、何に因るかといふに、第一は、生れ附きなり、物覺え良しとか、數學が出來るとか、繪が上手とかいふは、本人の生れ附きにて、教育にて作れるものにあらず、數學の下手な者は、生れ代らぬ以上は、生涯下手なものなり此生れ附きは、即ち父母が此の如く附けたるにて、これ亦本人の手柄にも恥にもあらず、出來るとて威張るべき譯もなく、出來ぬとて、愛想を盡かすにも及ばぬなり。而してこれには富貴貧賤の區別なく、貧民の子にも、大した頭をもてるもあり、金に不足はなけれども、頭の知慧が少々不足なるもあり、何れも生れぬ先きよりの約束にて仕方なきものなり。次に此生れ附きに磨きを掛け、其玉を光らすものは、教育と境遇なり、貧民の子にて、恰悧く生れながら、惡しき境遇に置れ、又教育を受けざりしが爲に、生涯碌々として暮らすもあり、頭は左程にもなきも、良き教育を受け、良き家庭に人となりたる爲め、人並みの者となり、生れが良いだけに豪らく見へるもあり。これも仕合せと不仕合せのお蔭にて本人を譽めることも尤めることもなきなり。されば子供は勿論、大人にても、學問があるとか、ないとか、出來るとか、出來ぬとか出世したとか、落ぶれて居るとかにて、一寸も威張るの、屈むのといふ理窟はなく、矢張り人間は平等對等であるべきものなり、世には少しく出世したりとて、人に對して横柄に振舞ひ、不運にて薫ぶつて居る舊知、故友より、彼れは友達なりといはるゝを恥の如く思へる者あり、其心根の陋卑なる、誠に憐むべきなり。斯る人間は、親類が落ちぶれたりとて、うるさくは思ふとも、合力の一つもするものにあらず、況んや赤の他人をや、同情などいふものゝ間違つて塵ほどもある氣遣なきなり、その代り上の人、交際して居て爲めになると思ふ人には、猫の子を貰ふたをも緣にして、取り入り、ペコ／＼頭を下げ、機嫌を取りて、二た目と見られたさまにあらず。人物は大きくなり、豪くなるほど、腰が低くなり、人に丁寧親切となるものにて、恰も實入らぬ穂の伸ッ張り切つて居るに反し、熟れるに從ひ、頭を垂るゝと一般なり。

以上述べたる所が、果して道理ならば、人は決して他人に對して、威張るべからず、横柄なるべからず、自ら自らを尊敬する如く、他人をも尊敬せざるべからず。若し己れよりも見すぼらしき生活をなせるものあらば、己れの幸運に引き較べて、氣の毒に思ひ、出來れば相當の助をなすべし、決して衣服が穢なし、臭しとて輕蔑すべからず、己れが彼の家に生れ、彼の貧乏なる生活をすれば、また、彼の如くならざるを得ざりしを思ふべし、淺墓なる事を言ひ、不分別なる行をなしたりとて、彼れは齒すべからずと、擯斥すべからず、教育を受くる能はず、野育ちに放任されたればこそ、斯くはなりたれ、己れも彼の境遇に置かれたらば、亦彼の如くならざる可からざりしを想ひ、身の仕合せに引較べて、彼れを憐み、出來れば之を救ふことを考ふべし、すべて人を見ること斯の如くならば、威張らんなどの念は、毛頭起るものにあらず、たゞ憐れなり、氣の毒なりと感じて、同情といふものゝ起らずとは居れぬなり、それでも同情の起らぬものは、人間にあらず、斯る同情が、眞の同情、心の奥底よりの同情といふものなり、これだけ出せば、多數の人に吾名を知らるゝと云ふを、唯一の目的として、出金するが如きは、同情でも何でもなく、たゞ虛榮心に使はれたるに過ぎざるなり。されば施しや出金は成るべく無名にて爲すべし、其愉快滿足は、遙かに名の出るよりも大なるものなり、名の出るだけ、それだけ心の滿足は喰ひ減らさるれども、純粹なる同情よりせる慰問、慈善は、十度十の滿足が、心に得らるゝものなり。

奮發

戰時必要のために起りし會は、戰爭の終結と共に、其仕事も終りて平常に復し、或は散會して仕舞ひ、招魂祭も濟み、觀兵式、觀艦式も濟み、軍人の論賞叙勳も程なく濟まんとして、世は全く元の天下泰平に戻りたれども、獨り濟まざるものは、愛國婦人會の事業なり、苟も軍人遺族の存する以上は、其事業は濟まぬなり、濟まぬのみならず、今後盡すべき任務は益々多きを加ふるなり、乃ち會及び會員は、他の濟みたるに釣り込まれずして、何時までも戰爭當時と同じ心地にて、働かざるべからず、今や殘暑も程なく過ぎ去らんとす、秋季にも入らば、元氣を恢復し、大に奮發して、目覺ましき働きをなさんことを、今より願ひ置くものなり。

癈兵院

軍人の遺族救護と共に、本會の目的たりし癈兵救護の事は、幸ひ政府自ら之に任ずることゝなり、癈兵院も先づ東京に設置さるゝことゝなれり、本會年來の希望も一部分之にて達せられ、誠に慶賀に堪へざるなり、然れども我が國の如く、家族主義の發達して、不具の者は、家族親類が棄て置かず、親切にいたはり侍づく國に在りては、思ふに癈兵院に來る者は多からざるべし、これは寧ろ多からざる方、慶すべき事と思ふ。されど癈兵院が出來、癈兵が收容せられたりとするも、多數の癈兵は、尚地方に在住するものなれば、本會の事業は、決して荷が減りたる譯にあらずして、癈兵の救護は不相變爲すべきものなり。尚新設の癈兵院に付ては、西洋の實際をも取調べて、癈兵をして一生幸福の感じを以て、生活せしむるやう、設備せられんことを望むものなり。

軍人遺家族子女慰安旅行

時事新報は、先月下旬より、軍人遺家族の子女慰安のため、男女兒各百名を、相州鎌倉、江の島及び横須賀に數日間旅行せしめつゝあり、時事新報が從來も屢々斯る慈善的旅行を催せるは、皆世の推稱する所にして、實に新聞社其他の團體に向て此方面に於ける好模範を示せるものといふべし、殊に鎌倉にては、女兒が、常宮周宮兩内親王殿下に拜顏して難有き御諚をさへ拜聽するを得たるは、日頃軍人の遺家族を思はせ給ふ厚き御心のほども感佩せられて、獨り女兒のみならず、一般遺家族の光榮此上なしといふべし、延ては此擧を催せる時事新報の榮譽なりといふべし、我等は他の斯る擧に出づるものあるを願ふと共に、個人に於ても、斯る慰安を一人に對しても、行ふものあることを望むものなり。

女學生

六十餘日の夏期休暇を得て、都門を辭して故山に歸省し、懷かしき父母同胞、偕は親しき友に、追懷多き山に水に、一年振りにて面を合はせ、樂しき團欒、甘き夢に爍礫溶金の暑さをも忘れ、紫果の棚下、南窓の清風に、悠々自適したる女學生は、今や再び笈を負ふて各々其の學舍に歸へり來れり。

卿等が六十餘日の休暇に於て、身心を養ひたるは、更らに進むで大いに其の學を研き智識を擴うせんとする準備なり、時秋に入つて燈火親む可く、書冊に眼を曝すの好季節とはなれり、乞ふ休暇の惰力を以つて遊樂に流れず、放縱に奔らず、旗めて學に志し、新時代の良妻となり賢母となるの素志を忘るゝ勿れ。

電話番町五百二十番

◎本號には北海道支部職員の寫眞版附錄を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

婦人と文藝思想

文學士　登張信一郎

日本の倫理は忠孝仁義を説くと甚だ詳なけれども、戀愛と云ふことに至つては一も説いてない、倫理學者としては蓋しこれを説くとが六ケ敷いからでもあらうが、人間自然の根本問題は戀愛に歸着するのであつて、今日の新思想と云へば戀愛問題に外ならぬと思ふ、忠孝仁義の説の如きは恰も一枚皮を隔てた上の説てあつて、人の着る衣服を研究するが如きもので、人として世に立つ以上は此表面上の研究も必要であるが、尚ほ一層人間を研究するには、一枚皮を剝いだ上で眞裸體にして、少しの僞りもなく飾りもない、眞底の心の中を立割つて研究する必要があるのである、而し夫れては人の前に出して批判することが出來ない、口に云ふことが出來ない、紙に書くことが出來ない、そこを善く飾つて婉曲に其哲理を究める作用を爲すのは文藝の一の働きである、文藝は一國の精華であつて、若し國より文藝の花を取り去つたならばどうてあらうか、殺風景至極のことに陷るてあらう、恰も市に公園もなく、博物館もなく、美術館もなきと一般て、人格の上から云ふも猿が養着た樣なものである、金殿玉樓を構へて居ても、其家庭に於て文藝趣味が無つたならば、砲兵工廠の女工の家庭と少しも異る處はないのである、殊に文藝に對する潛勢力は婦人であつて婦人社會に於て文藝の趣味が薄かつたならば、一國の精華は充分に開いて馥郁たる香りを放つことが出來ないのである、外國婦人が交際場裡の談話は實に文藝て持切りの有樣てある、從つて談話が高尚て又趣味がある、文藝は總て理想を描いたもので、現世の醜惡なる點を離れて、遠く高く清く出來て居るものであるから、自然人の噂をしたり、臺所の話しをしたりするよりは高潔てあつて、其人の人格も高く認めらるゝやうに思はるゝのてある、今日では文部省が訓令などを出して小説を見せぬやうにしたり、又家庭に於ても是れを見せない家もあるやうてあるが、是れは畢竟社會に文藝的思想が充分に發達せず、小説を見ても之れを善く咀嚼する丈けの力がなく、其眞意を了解し得ることが出來ない爲めに、物の善惡をも判定しないで、只是れを見て驚くのである、日本の婦人でも男子と交際しつけて居る婦人は、握手されても平然たるものであるが、內氣なる娘が人に手を握られると驚いて顏を朱くすると同じ樣てある、文藝を好むは人の自然の性情てあつて、是れを堰止めやうとしても止まるものではない、堰止めやうとする丈け反つて氾濫するものである、殊に戰爭後は社會の思想が變化を要求して居るのてあるから、新思想の趣んとする潮流を止めんとするは危險のことてある、家庭文庫の中に良き小説が備へ付けらるゝと云ふやうにならねば文藝は進まず、家庭も進歩せぬのである、元來文藝は社會の調和力を持つて居ると共に、他の一方には社會に對する破壞力を有して居るのである、一枚の筆を以て社會の革命を惹起した例は、幾らもある、而して日本の普及的文學は、歌又は俳句の類てある、田舍に於ける百姓までが一の詩人であると云ふことは、外國にも例のないことてあつて、日本人の思想には何處となく高潔な處があるはこの爲めである、故に家庭に於ては此方法に依つてなりと、文藝思想の發達を計るとが必要であると思ふ。

交際術の養成

中島德藏

婦人には彈力性がなくては役に立ちません、主人の云ふことなれば、善い事でも惡い事でも唯々諾々として是れに從ひ、只其及ばざるを恐ると云ふ樣な婦人ては緊要な時の役に立ちません、一家の正に滅亡せんとするを、婦人の身を以て支へ起したと云ふが如きことは、實業家の婦人などには能くあることてありますが、平生押込めて人にも遇はさず、家計向きのことさへ知らさず、主人が其專制權を恣にする家庭ては、一家の衰運を婦人の力で支へるなど〻云ふことは、思ひもかけぬことてある、故に苟も一家を持つた以上は、平素より能く妻君を訓練し、社會の風波に耐へ得るやうな力を養成して置かなければならぬ、時々は夫婦の間に於て議論を鬪すこともよろしい、假令ひ夫と議論はしても其間の調和力を失はぬやうに、婦人得意の交際術に依つて、圓滿に局を結ぶ丈けの技量を備へて居なくてはならぬ、妻は夫の友人として、又其相談相手として、有力なるものでなくてはならぬ、風に柳で押しても突いても反響のないやうては一家を充分に營むて行くことが出來ぬ、夫に向つて何事でも話す丈けの力ある婦人であれば、他人に向つても又充分に交際が出來なくてはならぬ、人は社交の動物と云ふ程で、交際に依つて知識を得、又興味をも感ずるものであるから、社會の風波とは如何なるものであるかと云ふ其味を甞めさせる爲めにも、妻を家庭の中に押籠めて置くのは宜しくない、男子と同樣社交の人とせなくてはならぬ、故に男女交際論と云ふことが起り、私共同志者の間に於ては頻りに研究致して居りますが、未だ是れぞと云ふ結論に到着せず、今尙ほ研究最中で何れも皆其必要は認めて居りますが如何なる方法を用ゆれば最も弊害なく、又善良に行ふことが出來るかと云ふことを研究して居ります、其中で家族を中身として、家族團體に依つて互に交際すると云ふことは、少しも弊害のないことゝ認められて居ります。そこで丁酉倫理會ては家族會と云ふものを起し、會員が互に家族を同伴して出て、互に其間の交際を爲すことに勤めて居りますが、今日まてに既に三回開き、此秋又開會するの考へてありますが、別に六ケ敷い規則を設けるてはなし、互に顏馴染になつて往けば、其間に又面白き談話も出來るやうになることゝ考へて居る次第であります。

秩序と禮義

內務書記官　井上友一

一家の秩序と云ふことは素より必要のことてあるが、一家のものが悉く各自の仕事に對して、面白く樂しく仕事をすると云ふことは最も必要のことで、所謂秩序なるものは其の方法として生れ出ることかと思ひます、總體上に立つ人は同情を以つて人を使ひ、下に在る人はまた同じく同情を以て上に仕ふることを喜ぶやうになり、又眼下の人が眼上の人に頭を下げると云ふやうのことは、社會に處する當然の禮儀であつて、此の禮儀は上下貴賤の階級よりして生れ出るものである、而して下級の人に善き行ひがあつた時、上級の人が是れに頭を下げて能くして吳れたと禮を陳べると云ふが如きは、決して秩序を亂すものでないのみならす、誠に言ひ知れぬ奥床しき感じがするのである、甞て倫敦市長がヨボ〳〵した老人に禮を云つたと云ふ有名な話しがある、それは或る日のこと倫敦市長が、金鞍玉馬を驅つて倫敦の大道を走りつゝあつた時のことで、倫敦市長と云へば、英國ては總理大臣に次ぐ位の地位名望のある人てありますから、人々目を聳てゝ見て居りました、すると向ふの方にヨボ〳〵の老人が杖に倚りながら歩行いて來ましたが夫れを見ると市長が馬から飛び下りて、日本で云へば平身低頭と云ふ程懇切なる挨拶をしました、是れを見たる多くの人々は、少なからず奇異の感に打たれましたが、後にて此老人は慈善の化身とも云ふ可き育兒院の院主であつたことが分り、市長の善行者に對する禮に厚いことを感心しました、斯樣に善き行ひを爲した人には、高貴のものと雖も禮を施し、互に其職務を尊敬仕合ひ、其仕事を樂んて行ふやうになつてこそ、始めて一家は素より一國も善良に治つて行く次第であります、故に各自の仕事に興味を有つと同時に、禮儀を致すことを忘れないやうにし、社會の秩序を健全に保つて行きたいものであります。

今後の活動

評議員　關郁子

愛國婦人會は僅々五ヶ年間に五十萬に餘る大多數の會員が出來ました、是れは日本人の愛國心に富む好例でもあり、且つ家居にのみ安んずるの評ありし日本婦人が公共事業に盡力するの力を有することを始めて發見したやうな譯であります、四海同胞は世界の理想であるにも拘はらず、血を見るの戰ひは未だに全滅しません、が、世の進歩と共に比較的減少して行くことかと思ひます、殊に國家の繁榮は餘程實力の有無に關係して居りますから、將來の日本は唯戰爭に强いのみては決して得々として居られません、而して國家は各方面に諸種の政策を取つて居りますに反し、日本婦人の活働範圍は甚だ少ないやうに思ひます、故に今後は愛國婦人會が是れまての熱心をつゞけて、今や大なる發展をなしつゝある此日本社會の爲に眞誠の活動をするやうになりませんと、決して健全な國家とはなれません、鳥も兩翼が自由に働いて始めて能く飛び得ます、世の中は凡て男女兩性が各々の職分を立派に盡す樣になりてこそ、國家の繁榮を見ることが出來るのであります。

▲牛込うばらの宮人氏　至急御本名御通知下さい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞小說

武田櫻桃　三島霜川　江戸靜川　三氏合選

紅芙蓉（二等）

加藤いそ子

上　病葉

「波ちやん、お前勘忍しておくれよ」姉の菊子は頰摺りして慕しそうに妹の顏を眤と視る目に、時ならず露が月の光に燦々と湧上つて、軈て一滴、身は破れた旅衣、肌の肉さへ瘦せて寒げに、野末に伏せる石かとぞ見らるゝ膝にも、涙の熱さは泌みたてあらう。波江は幾日昔、手束ねの夜會が少し頹れて油氣なく蓬々と亂れし髮を、愁の淵瀨の亂れ藻と枕に零し、蒼白い面に薄紅さしてゐるは僅に唇の苔、風に散りしく桃の葩。血の氣蒼い手に犇と姉の手を握り寄て、あるかなきかの聲、是ぞ露に生ける叢の秋蟲。

「姉さん泣いては、妾、か……悲しくなるわ、妾些とも辛くはなくつてよ」

「え、姉さんを勘忍してくるの?!　まあ波ちやん、姉さんはお前が可愛想で、獨りでに涙が……零れるのだよ」

菊子は月に背いて泣いた。

「あ、妾こそ姉さん氣の毒で堪まらないのよ。這奈に旅て病氣したりなんかして、心配ばかし懸けるわ」

「あら波ちやんお前、今から那麽苦勞おしなの、姉さんが添てゐるんだもの、安心して養生すれや可いんだよ」

「だつてお錢が澤山費るもの……」

「まあ幾何費つたつて可いじやないか、波ちやんさへ快くなれば其れ程結構な事はないよ、そんな心配しなくても氣樂に養生するが宜い事よ」

「だつて、姉さん姉妹は繼母に苛責られて逃げてきた身分だもの」

思はず聲が高くなるのを、菊子は手で制して、不安の中から心强く。

「だつて波ちやん、妾等はこれから一緒に樂しい新らしい清い仲の善い生活を仕樣と拔け出して來たんじやないか、路金は餘分に姉さんが持てゐるのだから、決して心配しなくても可いのよ」

「そう!?」

「そうよ、だから安心して養生おし、姉さんは、お前が這麽に寐てゐると什麽に淋しく思つて、心の中で泣いてやしないかと、それ計し氣に懸つてよ」

「あら！妾姉さんと一緒に暮らすなら、什麽山奥でも一生寂しうはないわ」

「え、眞實なの」

「一生放れたくない事よ」

「波ちやんは、這麽姉さんをそれ迄力に頼てゐるの！」

十六と十九の姉妹は相抱て泣いてゐる澄んだる月は蒼穹より皎々と光を投げて曉の頃近くへ沈みゆく世の靜けさ。和泉路は南河内、金剛山の麓が家に、旅館の窓訪ふ秋風蕭々と、落葉既に聲あり溪川又咽びて、怪鳥の夜啼腸を斷つ頃、巒峰の嵐冷たきに寄り添ふ此二人。妹は流石笑ましげに夢の歡樂に醉ひ、菊子ははた何に眉根寄するのてあらう。

中　小春日

秋晴麗らかに鳥の影射す香菊の籬、胡蝶二つうら〳〵と縺れて、滿山漸く紅意を含む頃てある。可憐な姉妹は今日を遙々假の宿を後に大阪指すといふ。指折れば二十日は山樵が草の舍に侘び住んだのてある。主人夫婦は孫に欲しき此二人と別れに臨んで泣いたのである。

「まあ娘衆、彼地でも隨分御機嫌よう御座らつせいよ」

權作爺は鎌を片手に鼻汁啜るのだ。媼はせめてもの情と、竹の皮包み二つを、無理に菊子が提げた信玄袋に押し入れて「若いお娘には途中、澤山氣をお附けなされよ、今更ら一緒に居たものが別れるなあ、本意のう御座るだよ、這麽山の奥だけんど又尋ねて下さるだあよ」

二人は感激せずにゐられなかつた、此袂れの期に及んでも、親切な一言一句。

「何卒貴翁方も御健康に、念じて居ります」　これが最後に幾度も繰り返した言葉である。折から不圖脊戸から馬を曳て顯れたは此家の子息である、二十三四の屈強な若者で。色は黑いが聲の凉しい優しい氣性は兩親より禀けた其まゝ、殘り惜しげに、しげ〳〵と視た。

「もう眞實に往かつしやるだかね、一生のお別れだと……己し、何か紀念に進げるべい、忘れずに傍に置て呉れさつし」と見ると、見事に咲いた、紅芙蓉の花を蟲喰みの葉を捨てゝ、自分の手で後ろから二人の髮に挿して

「よく似合ふてがすよ」家族三人は異口同音に叫た。

「まあ有難うよ」

二人は更に交る〳〵泪の眸を交換して山路を馴れぬ足に踏んてゆくのてある。吁美しい人情の花咲く溫室を出てゝ、二人は寒帶の氷宮に流離の乎。

下　悔恨

「吁、神樣何卒妾が今迄犯しましたる罪を御免し下さい。よしや母は繼しいにしても私は私のわが儘をよう怺える事をせずに、一人の只た一人の妹を唆のかし、都の空を憧れて無分別に飛出して參りましたは、妾が惡う御座いました。吁神樣よ、今青春の戀に身を亡ぼせる妹をば、何卒妾に代て、改心しますやう崇き御力に依て救の手を垂れ給はむ事を……母は今故鄕に危篤との事で御座います、罪の子、私は何と申譯して審判を受け得られる事てありましよう、吁」

胸に銀色の十字架を捧げ、咽び泣ける婦人がある。吁其後三年の月よ日よ、菊子が變れる此姿よ！可憐なる妹波江は如何にしたる。傍へに一通の電報は披かれてゐる。

ハハキトクスグカヘレ　オヂヨリ（完）

東西名婦傳

高島竹雨女史

須藤鳴門

女史名は文鳳、竹雨は其號、江戸麴町の人高島彌兵衞の長女なり、幼より慧敏、性文筆を好み、書を佐野東洲に學び、讀書を竹村悔齋に受け、又茶湯を宇佐美猷齋に學ひて、奧義を極め、印可を得たり、悔齋の殁後、佐藤一齋の門に入りて、經學を修め、詩文を習ひ、其業大に進む、當時は幕府尙ほ隆盛の時代とて、本丸西の丸大奧の女中數百人あり、時に文政四年なるが、女史は大奧女房たちの師範として、之れが敎授を爲せよとの幕命を受け、是れより千代田城大奧に出入して、女中方に敎授せり、かくて女史の名は天下に喧傳せられ、その門下に敎を受くる者六百餘名の多きに至れり、時に林大學頭は、天下の文權を掌り、海内の士、皆其門下に群集せり、而して當時の習とて、女子の贄を其門下に執るを許さず、曾て一人の女學生なし、然るに女史は、篤學力行にして、且つ世上の婦女の如く、容姿を修め、艶冶の態なきを以て、つひに林家の門籍に登ることを許可されたり世人以てこよなき面目と爲せり。女史人と爲り靜婉にして、內は極めて嚴肅なり、一日黃昏に柳原堤を通行す、盜兒其所佩を奪去らんとす、女史手ばやく銀釵を拔き取り彼れの眼にあてがひければ、盜兒肝を潰して逃去れり、又笄年に及び父母爲めに婿を取らる、女史婦道を執りて謹み事ふ、一日來客ありて二階に請じ宴を設く、女史其間に給仕す、宴やみ、女史膳部を撤せんとて膳を捧け二階を下らんとして失脚轉落つ、良人樓上に在りて、器皿を毀つなきやと問ふ、女史憮然として曰く、咲、良人間を失へり、宜しく先つ婦が損傷をこそ問ふべきにさはなくて、唯器物をこれ問はせたまふ、婦はかゝる無情の人に一生伴はんことを願はさるなりと、即ち父母に請ふ、慰諭すれど從はず、父母其志の奪ふべからさるを知り、已むを得ず婿をして斷念せしめ離緣せり、其後女史は身を持すること益々謹嚴にして、終身又夫を持たず、安政二年享年六十六にて殁りぬ、四谷禪山寺に葬れり、一齋翁その墓碑に記して曰く、嗚呼女史、好學不懈、四十年如一日、求之丈夫不爲易得、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子の本分

幹事　浦　月　子

女はすべて貴族生活を望むものなりとは或人の說に見えたる所なり、實によくもうがたれたる言葉にこそ、中の程より下さまなる者に在りても、只一時の見えにだに人しれずさる心ばへのとゞめがたくて、身にも似つかぬ美はしき衣を着け、明日の心をも思ひはからで、まのあたりあらむ限りを費すめる、こは貴族といはれん程の望みもあるまじきなれど、せめて外より豐なるさまに見られんと、表べを飾り高ぶる心よりぞいづるなるべし、又みつ栗の中程なる際は、同じくは上さまのやうに見られてしかと振舞ふ言葉の打ちあはざるにも心つかで、只狀形にとさまかうさま思ひをこらすぞ是非なき、さるにてもおのがしゝ心のまゝなるを、人のかにかくと口ばしいれむはそこなりといはるゝもあらん、さはれ其の程々に過ぎぬほどならむこそいとゞめでたからまし、いかに富み榮ゆる人なればとて、いたづらに裝ひをのみ慰みはづべき、とにもかくにも成すべき事のさはなる世にしあれば、身を節して餘れるを施し、或は蓄へて不時の變に備ふるなどはいはずもありなん、人又元よりこの志なしとにはあらざるなり、されど世の勢にせめられて、いつとはなく競ふ心のまけじ魂に、さらぬ方にだに流れゆくこそわびしけれ、各々分に安んじ身を顧み、徒らに及ばぬ空をながめんより、美しきは心の修養なり、美服を身に纏ひたればとて、必ずしも貴き人ならじ、心明に學藝身を飾らば、いかにたふとくあふがれざらむ、表べにのみ競ふのならはしを改め、願くは高尚なる心の望をおこされむことを、彼の外國人のいひけん、英勇豪傑を作らんとて子をば育てじ、好き市民をこそとあげつらはれし、誠に其の言のいとせめてぞ覺ゆるかし、人皆高貴の皮相をのみまねび、おのが本分を忘れなば、國の爲ゆゝしき憂ならずや、學校などに物學ぶ人達は、いかなる心にかあるらん、親の惠に浴し、師の敎へに導かれ、規則にくゝられて只試驗の首尾をのみきつかひつゝ、業卒へては、ならひし事も其が半を忘れがちなるにては非ざるか、自ら勵まし自ら敎育して、猶學校の足らざるをも補はん事を心懸くべきにこそ、さればとて女子は物學ぶ年月も短きに、品はた多ければ悉く名人學者にはなりえざるべし、只普通の事として實地にも行ひえらるゝ樣、學びたる業を捨てざるをこそ望ましけれ、其の上猶深く極めんとするなは、人々の心にあるべし、家政をあづかり子を育むやうになりては、物事實地の練習なれば心の惑はざる程にぞあらまほしき、其が中にも年と共に新らしき學びの道に光を求めて進み行かば、誠に美はしき理想の家庭とやならん、國に盡す心のかたはしとやならまし、すべて己に克つの精神堅固ならましかばと覺えて、皮相にながるゝ心の戒ともならば、いかばかりうれしからまし。

食べ過ぎと飮み過ぎを愼しめ

ドクトル　川瀨元九郎

西洋でも日本でも、靑年の仲間には大食を以て自慢するの風がありますが、血氣盛んの間は何んなに食べても飮むでも一向身體に應へないものであります、然し三四十位ゐになつて慢性的胃加答兒や胃擴張や、便祕で苦しむものが澤山にあります、二三年も胃腸の異常の爲めに苦むで居ると、其中に神經衰弱やら、肺結核や、肋膜炎などと云ふ恐しい病氣が取り着くやうになります、是等の遠い原因の一は確に靑年時代の暴飮暴食に基くものであります。

斯樣な惡い習慣を着くるのは、小兒時代に於て親達が間食をさせたり、勝手氣儘に飮食させたからである、古來有望なる人々が業半ばにして倒れたり、病むだりする間接には、小兒時代に於ける惡習慣が原因であるとすれば、實に親達は充分に注意をしなければなりませぬ。

米國の或る所で慈善會の人々が、市內の貧民の兒童を集めて園遊會を開きまして、菓子の食べ競をさせたお話しがあります、數十の兒童の中から六人の候補者を選むで、是れに六個宛のパイ(厚さは一寸位ゐで直徑は七八寸位ゐある)を各見に與へた、すると一番早いのは二分八秒に六個とも食べて了つたさうであります、慈善と云ふ名儀は實に結構でありますが、是れでは宛然人の子を玩具にしたのであります。

競爭と云ふことは惡いことではありませぬが、食べることや、飮むことの競爭だけは止めて貰らいたいものであります、是れが後に至つて、人を殺すことになるのでありますから、實に恐るべきことであると思ひます。

斯樣な次第でありますから、幼兒または靑年子女を持たるゝ方は、常にこの事に注意をなさらぬと、將來取り返へしのつかぬ大なる不幸を見ねばなりません、命あつての物種と云ふ諺がありますが、誠に健康ほど大切なものはなく、身體が弱くては國家に何一ツ貢獻することも出來ず、また其の當人に取りてもこの位ゐ不愉快な不幸なことはないのであります。

繪ハガキを分配いたします

和歌、俳句應募者の數ます〳〵多くなりて、是れに用ゐたる繪ハガキまたます〳〵多くなりました、就いては是れを何等かの方法を以て諸姉に分配すべく、曩に其の案を募りました所、長崎なる萬原梅香子姉の案最も公平にして、また簡易なりしをもて、この方法を執りて分配することに致しました、希望の方は、左の規定に基いて御申込み下さい

一　分配方法は抽籤とし、編輯局の給仕を代理として籤を抽かす事

二　等級は「百」に分ち、一番より十番まで二拾枚宛、十一番より三十番まで拾枚宛、二十一番より六十番まで五枚宛、六十一番より百番まで三枚宛とする事

三　この分配を受けるは從來の和歌俳句投吟者に限る事

四　希望者は二錢郵券を添へて九月二十日までに申込む事

五　抽籤は十月一日に行ひ五日以內に夫れ〳〵へ送附する事

小兒の夏の暮し方

高島平三郎氏選

▲三等　山形　阿部さゐ子

夏は成るべくは子供をして充分なる監督の下に、親自身ならばこれに越したことはない、旅行をさして新らしき事物に接せしめ、知らず〳〵のうちに其地の人情風俗など子供の頭に適するだけを覺へさせたい、そして又物をさとり記憶の力を養いたいと思ふ、常に塵埃に塗れて都に住まつて居る子供は山や海に遊ばせ、或は海水浴に、或は植物を採集せしめたい、又田舍に住んで常に新鮮な空氣に觸れて居る子供ならば、自らをして野菜の手入をさせ、草花などを植えることを奬勵し、園藝の趣味をもたせ、子供に觀察力を養ひ、樂しきからちに新智識を得させ、盛に運動させて、身體を尤も健康にさせたいと思ふ、そして自然界に多く子供をなれしめたら、知らず〳〵のうちに自然美をも養ふことが出來やうと思ふ、學校や幼稚園に出ると、どうも親類などに疎遠になるものであるから、夏の休みに遊びにやつて、親情をあたゝまさせたい、若しも何處にも行かなかつたら、親たる人は充分に愛情を以て樂しく暮らさせたいと思ふ、いづれにしても規則は正しく守らせねばならぬ。

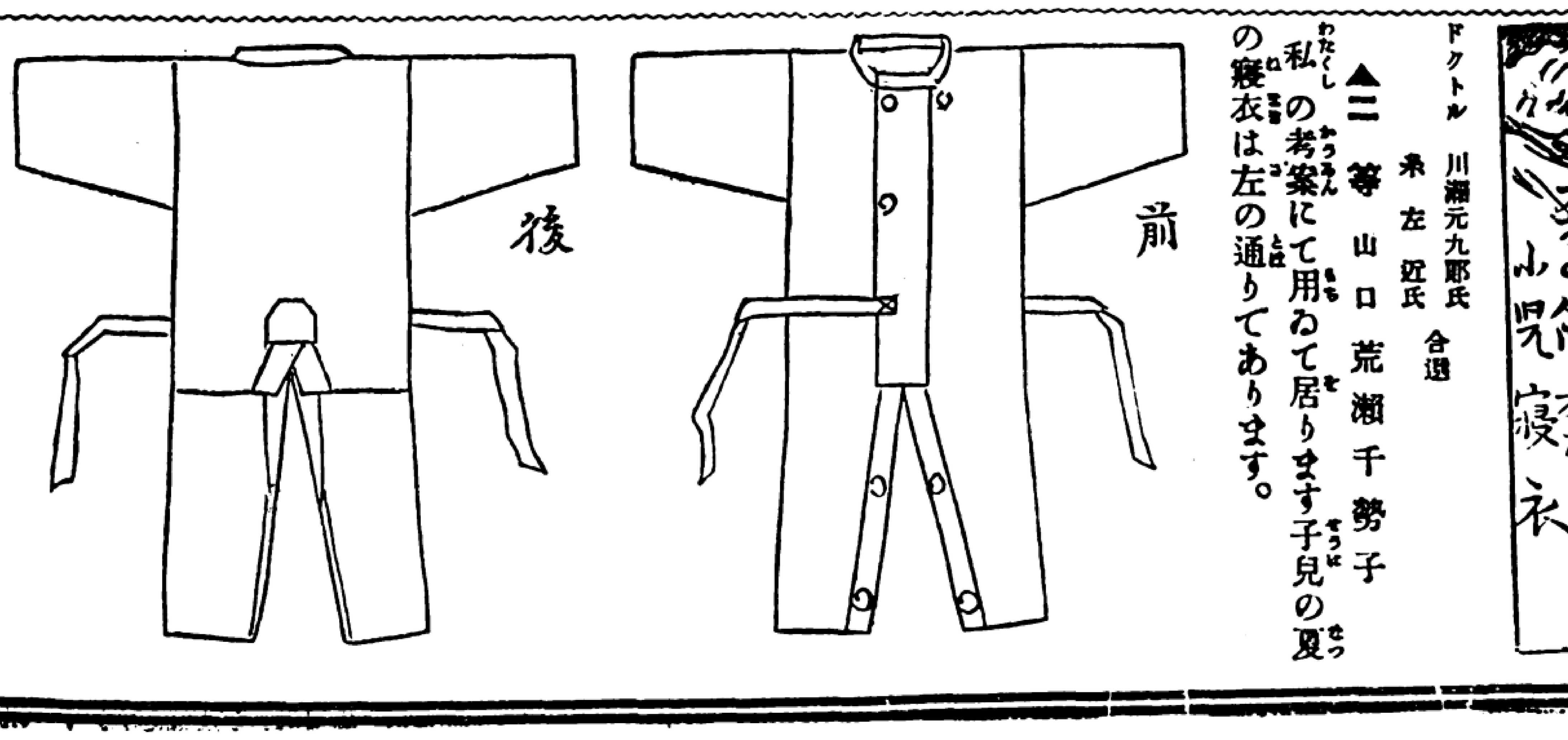
▲評　旅行の利益を說かれし點は富永氏と全く同意見ですからいふまでもなく選者も贊成です。其の外のことはまことによい御注意ですが惜しいことにもう少し順序系統を立てゝ精密に書かれたらよかつたでせう。

夏の簡易なる小兒寢衣

ドクトル　川瀨元九郎氏　米左近氏　合選

▲二等　山口　荒瀨千勢子

私の考案にて用ゐて居ります子兒の夏の寢衣は左の通りであります。



紐は圖の如くにて前に廻はして結ぶのであります、それから。印のある所は、總てボタンを附けるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●理事會　九月中の理事會例會日取りは左の如し

九月十二日（第二水曜日午後二時）

●評議員會　九月中の評議員會例會日取りは左の如し

九月二十六日（第四水曜日午後二時）

●總裁殿下支部總會御臺臨　山形秋田兩支部總會へ臺臨の御發着御豫定は左記の通り定められたり

△九月十五日　上野御發　午前八時五十五分
　　　　　　　福島御着　午後五時三十七分
△九月十六日　福島御發　午前九時四十分
　　　　　　　山形御着　午後二時一分
△九月十七日　山形總會
△九月十八日　山形御發　午前八時三十五分
　　　　　　　秋田御着　午後三時十五分
△九月十九日　秋田總會
△九月二十日　秋田御發　午前六時十五分
　　　　　　　福島御着　午後七時四十五分
△九月二十一日　福島御滯在
△九月二十二日　福島御滯在
△九月二十三日　福島御發　午前九時十四分
　　　　　　　上野御着　午後六時五十五分

●葬儀會葬　去月二十日本會評議員德川久子氏の嚴父侯爵德川義承氏薨去せられたるにつき評議員清浦錬子氏岩倉會長代理として弔詞を提へて弔問し又た葬儀の際は評議員山地子爵母堂、千家男爵夫人、松平男爵夫人、小浦義子の四氏池上なる本門寺に會葬せられたり

●遊說員消息　野中やち子氏は三重支部內遊說を終へ去月廿九日歸京本月二日より秋田支部內遊說の途に向へり富樫眞喜子氏は靜岡支部內の遊說を終へ八月廿五日歸京し同月廿九日凡そ二週間の豫定を以て宮城支部內遊說の途に着けり

各地支部狀況

●東京支部　同支部にては遺族及び癈兵に生業を授く可く左の印刷物を各幹事部に廻附し幹事部に於ては之れを以て目下專ら希望者を勸誘中なり

戰死並に準戰死者遺族及癈兵の方々に生業を授け以て生計の一助たらしめんが爲め當支部は麴町區九段坂下牛ヶ淵公園と赤坂區新坂町六十九番地との二ヶ所に授產場を設け裁縫と洗濯の事業を授けつゝあれば希望の方々は隨時前記兩授產場何れへなりとも申出らるべし其規定左の如し

一牛ヶ淵授產場に於ては裁縫を主とし赤坂授產場に於ては裁縫洗濯の二種を主とす
一裁縫工女は熟練と勉强とによりて一日金貳拾五錢以上を得るに至るべきも新規就業の方々には練習中一日拾錢に相當する額を補給すべし
一洗濯を望まるゝ方には最初一日金拾五錢を給し熟練に隨ひ金貳拾五錢迄を支給すべし
一赤坂授產場には幼兒保育所の設備之あるにより幼兒を携帶せらるゝも差支なし
一自宅に於て襦袢袴下の下縫のみを望まるゝ方は前記授產所に就きて問合はされたし

●大阪支部　有功章授與式を支部に於て擧行せり尚之に引續き本年支部總會參列の市內居住の遺族癈兵へ特別下賜金及門標並に優待員章を授與せり初日には歸途中の奧村刀自も臨場せられ一場の演說あり爲めに參會者は總裁殿下の優渥なる旨に據り本會が遺族癈兵を慰安救護に勉むると役員等の鄭重なる待遇に一同感泣感謝したり當日參集の癈兵遺族には休憩室にて茶菓を與へ役員中有志の寄附にかゝる午飯を饗し三日間共午前十一時より擧式し午後二時に式を終へたり

●島根支部　同支部は從來縣廳內に於て便宜事務を處辨し來りしも追々會員も增加せしにより今後松江市母衣百二十八番地に事務所を設け新たに專務主事以下の職員を置き八月一日より同所にて事務を處理することゝせり尚松永島根縣支部顧問は今回隱岐國巡回の餘暇を以て八月十六日夜西鄕町蓮光寺に於て慈善事業と愛國婦人會員募集及會務擴張上に關し演說あり當時該地出張中の鎌田境海務署長も亦本會の趣旨を贊し演說する所ありたり參集者は幹事部職員町村長有志者（概ね婦人）等凡百名なりき

●青森支部　本月中旬有功章授與式を擧行する筈なり尚支部長は幹事兩名を伴ひ同縣上北郡に於ける戰死者遺族並癈兵慰問を兼ね會務擴張の爲め出張せり

●石川支部　金澤市幹事部に於ては兼て生產救助の目的を以て同市內松ヶ枝町に授產場を設置し麥稈眞田細工及西洋編物の事業傳習中なるが當市內九人橋一番地に臨時出張所を設け西洋編物の傳習を開始せりといふ

●北海道支部總會　九月廿三日札幌中島公園地に於て開會する筈尚本會よりは總裁殿下御名代派遣せらるゝ都合なり

●宮城支部　仙臺市に於ける日清及び日露戰役戰死者遺族中困窮者二十一名に對し宮城支部は八月廿四日午前九時龜井支部長より慰問金を贈りて賑恤する所ありたるが早川市長は特にこゝに臨席して同會の設立趣旨に併せて懇篤なる慰問の辭を述べたり

●三重支部　同支部阿下喜幹事部にては郡長宮城庄三郎氏の熱心なる盡力により各村に美事なる婦人會旗を作り此程本部より遊說員野中彌知子氏を聘して右會旗の式を擧ぐると共に講話會を開らきしが各村ともこの旗下に集まらざる婦人は殆どなきほどの盛況なりきと、又た三重郡目永村なる松岡忠次郎氏は夙に本會の贊助員となり同家の婦人は殘らず特別會員となしたるのみならず他を勸誘して同村內一千人に對する八十人に相當する會員を作りたるほどの篤志者なるが尚ほ今回は會員を募つて貯金法をも立てたりと云ふ其勞其功何にか譬へむ

●岩手支部　評議員會を開き豫て計畫中なる縫取業（傳習所の開始を決議し本月十五日より愈々實施する都合にて名稱は愛國婦人會岩手支部興產所として最初に傳習生を募集する筈なり其の規定左の如し

第一條　傳習生を別て甲乙二種とす
第二條　甲種傳習生は三ヶ月間規定の時間內に於て每日傳習を受くるものとす
第三條　甲種傳習生には郡市を合し七百名を限り會費補助として一ヶ月間一日拾錢づゝを給與し此の期間は別に工賃を支拂はざるものとす
但二ヶ月目より其成績に依り相當の工賃を支拂ふべし
第四條　甲種傳習生にして傳習期間を經過したる時は其希望により自宅作業に從事せしむべし
第五條　乙種傳習生は別に傳習期を定めず便宜傳習を受くるものとす
第六條　乙種傳習生には食費を補給せず
但し自宅又は工場に於て加工製作し得るものには相當の工賃を支拂ふべし
第七條　傳習を終りたるものには本所より加工種類を指定し本所存續期間斷なく原料を供給することを計るべし
第八條　傳習生は本縣產業の爲め誠實に本業に從事し又猥りに轉業せざることを期すべし
但し止むことを得ずして轉業する場合には本所へ屆出づべし
第九條　傳習生は男女に拘らず十三歲以上にして身體强壯品行方正なるものに限る
第十條　傳習希望者多數なる時は先づ女子より之れを採用すべし
第十一條　傳習生は別に定むる保證書を差出すものとす
希望者は左の願書に族籍姓名職業年齡記入捺印の上愛國婦人會岩手支部又は盛岡市役所の受附係又は最寄當支部職員まで屆出づべし

傳習願
今般貴部興產所に就き　種傳習生として縫取手工傳習致度此段願上候也
明治何月何月何日
町　番地　職業　族籍
氏名
年月生

平壤より（八月十日發）

堀內文次郎

拜啓御地は冷氣甚敷氣候不順の由承り候得共當地は極めて順當の氣候にて京城以南は少し降雨ありたる樣子なるも京城以北は雨なく毎日室內九十度以上室外百十餘度さりながら朝晚は七十八度位に下り候特に空氣乾燥し居り淸風袖を拂ふ心地は何共云はれず誰れか韓國を夏の所と云ふや況して一步野外に出れば到る處山水明媚にして身心忽ち爽快を覺ゆ

都をば遠く離れて高麗島に
けふも暑さを知らですぎけり

京城以南釜山迄は內地の地勢に能く似て居り候得共京城以北特に平壤の野に出づれば全く大陸的にして一瀉千里而して山水の景色は勇大壯觀の間だに亦謂ひ見はし得ざる美麗幽邃の趣きを含み四顧徘徊去る能はざる絕景到る處に有之今はやさしき當會の主事昔しは泣子をも默らしめたる佐藤鬼將軍の御奮鬪の地牡丹臺邊の松樹の許に息ひ淸風に暑さを忘れて大洞江の長流を脚下に眺めなどする時は日暮るゝも歸るを忘れ申候

當地の風俗慣習に付て一二可笑事を御報導申さんに去る四日（八月四日）は月蝕而も皆既蝕でありましたサア大變平壤城內外の韓人は男となく女となく老も若きも各所に集り鐘や太鼓を打鳴らし耳も聾せん計り是れは大變平壤丸燒けかと始めて來た日本人は裸體で飛出す位ゐの大噪ぎを爲せり此大噪ぎを爲す目的が甚だ面白いです皆さん當てゝ御覽なさい……韓人の此噪を爲すはじやうだんや慰みてはないので誠に次の如き迷信から來てるのです月蝕も日蝕も韓人には左の通り見るのです

一ッの暗黑な國がある其國には日も月もなき故我々の日や月を取りに來る處が日や月は光て居て熱いから尋常な者では取つて往く事が出來ないそこで此暗黑な國民は火の犬を連れて來る火の犬だから熱いとて閉口せぬ故日でも月でも熱くとも喰べて行く事が出來る今夜の月蝕は即ち此火の犬が今や將さに我々の大切のお月樣を喰へて取り去らんとする處であるサア大變追ひ拂へ打ち拂へ月を救へよ、取られるな、と斯くの如く信じ斯の如く想ふ故に月蝕の際たる時は無我無中になり一生懸命に鐘を叩き噪ぎ散らすのです支那人も同一迷信を持つて居て何これよりヒドイので臺灣の如きは鐘を叩くのみならず銃まで放つと申します

月蝕の時でも日蝕の時でも盥に水を入れて覗見ます其映けて行く有樣が犬が口を開いて喰ふ樣に見ゆるのです!!!サア大變!!!今や我々の月はアノ犬の火の爲めに喰はれて取られんとす!!!兄いも翁も來り救へよ、助けよ!!!

右にて朝鮮人文化の程御推察相成度候次便には乳飲の婿秋の風俗等報導可仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供クラブ

鴉勘左工門

三島霜川

鴉と謂へば、羽根が眞ッ黑て、何んとなく憎體に見える鳥てございます。此の鴉にも二種あッて、人家に近い森に棲むてゐる鴉を里鴉と謂ひます。また嘴が細いから、嘴細鴉とも謂ひます、もう一ッのは、山鴉と謂ッて、嘴が太いから、嘴太鴉とも謂ひます。此の鴉は、體が大きい故もありませうけれども、食物を貪ッて意地も穢い。一體鴉といふ鳥は、怜悧な鳥ですから、雛の時分から飼馴らして置きますと、人の言を能く聞分けます。

あるところに、雛のうちから飼馴された一羽の鴉がゐました。そのお家は、掛茶屋でございましたが、鴉は、能く人に馴れて、何か喰べる物が欲しくなると、お客樣の前へ來て、カア〳〵と啼いてお請求をする、それが、恰てお子さん等がお請求をすると謂ッた調子てすから、可愛くッて、誰ても何か與らずに居られなかッた。て、充分に人に馴れきッて、飼主からも、お客樣からも、喰物を貰ッて、野にゐる鴉のやうに、彼方此方と喰物を探して歩くといふ必用が無いのですから、外を飛廻らないでも濟むのでありましたが、其處が鴉です。飼主の家にばかりゐて、人間を相手にしてゐたのでは、何うも面白くないものと見えて、毎朝きッと一度は、近邊の森へ飛んで行き、他の鴉とお仲間になッて遊んで來ました。何うかすると、お友達さへ連れて來ることがあッたと謂ひます。併し何處にゐても、飼主の呼ぶ聲を聞付けますと、カア〳〵啼きながら歸ッて來て、何か喰べる物のお請求をしたと謂ひます。何んと、可愛らしい鴉ではございませんか。

今度は、それとは打ッて變ッて、憎らしい鴉のお話。一體東京にゐる鴉だから、すれッからしになッてゐるのでありませうが、あの、上野公園の森から谷中の森にかけて棲むでゐる鴉の惡性と謂ッたら、それはお話にならない位。なるほど數も多い、あの森にゐる鴉と謂ッたら何百羽だか解りません。その鴉が、どれもこれも、恰て掏兒のやうでございます。公園を通行する車力などの中には、能く車に載せた辨當を攫はれることがあると謂ひます。その攫ひ方のすばやいことゝ

おもしろいおはなし　れー

いふものは、それこそ電光石火。大抵の者は、攫はれたのを氣が付かずにゐると申します、それて、毎日お辨當を攫ッて惡い事を仕馴れた鴉は、盜んだお辨當の喰べ方も、なか〳〵馴れたものだと謂ひます。尙だ馴れない新參の鴉ですと、風呂敷は滅茶〳〵、辨當箱も啄き毀して了うさうですけれども、少し馴れたのは、嘴でもッて、巧く風呂敷の結目を解き箱を、そんなに毀さないで中味だけを喰べるといふから驚くてはありませんか。何しろ鴉といふ奴は、惡狡いほど怜悧な鳥てございます。

鴉には、鴉勘左衛門といふ渾名があッて、東京邊の子供等は、鴉を見ると、此う謂ッて謠ひます。

「かあらす、かあらす、勘左衛門、おまへのうちやア燒アけるから、早く行ッて水注けろ、水が無ければ湯ゥ注けろ、湯がなけりや茶注けろ。」

また京阪の方では、

「かあらす、かあらす、こ――めんじよ鐵砲打が通るぞ、早う去ンて田ア作れ。」

と謠ひます。またある地方では、

「かあらす、かあらす、こーめんじよ、鐵砲打が通る、お前のうちやア燒アけるぞ、早う去ンて肥料をかけ、水をかけ、ドン。」

此の、おしまひのドンて、銃を向けて擊つ眞似をするのであります。

それらかまた、東京邊の子供が、若も鴉と、雀と、鳶とがゐるところを見ると、

「鴉はカア〳〵勘三郎。雀はチューチュー忠左衛門。鳶はとろゝの和尙樣。」

とうたひます。何でもないとのやうてすけれども、面白い歌てはありませんか。

そこて一ッ、馬鹿て、たかぶッた鴉の昔噺を致しませう。

ある田舍に育ッた鴉が、其處らの田圃に下りて、何か美味い喰物が轉ッてゐないかと、彼方此方と探し廻ッて居りました。そのうちに一ッの大きな田螺を見付けたものですから、大悅て、いきなり、大きな嘴で殼を啄き毀して中味だけを頂戴しやうと致しました。

すると田螺は、慌てゝ聲を掛け、

「もし〳〵、鴉さん。何う、鳥渡お待ち下さい、たッた一と言、貴上に申上げたいことがあります。」

すると鴉は、田螺を片足に踏へたまゝ、

「何んだ、謂ふことがある……謂ふことがあるなら疾く謂へ。俺の腹の蟲はな、疾く汝を喰べたいといふのだ。」

「それは結構なことてございます。私は貴方のやうな方のお腹の蟲に好かれて喰べられたら、反て幸だと思ひます。」

「おや、妙なことをいふぜ。」と鴉は、少し變に考へながら、「何んだ、汝は、俺の腹の蟲に好かれたのを幸だといふのか。」

「はい。ま、此の世界には、鳥の種類も澤山ありますけれども、貴方のやうに黑い艶のある奇麗な羽根を持ッてゐる鳥といふはありません。それから聲です。鶯の聲が好いの、駒鳥の聲が好いのッて、貴方の聲には、とても及びも付かないとです。お聲と謂ひ、お姿と謂ひ、日本どころか、世界一！」と巧く煽てました。

鴉は、ぐッと反身になり、

「それては、俺が世界一の美しい鳥か。」

「然うてございますよ。私は、貴方のやうな方に喰べられたら本望です。そこて一ッお願がございます、何うぞ、その美しい翼をひろげて、美しい聲て啼いて下さいませんか、私は、それを土産に快く貴方に喰べられて了ひます。」

鴉は、好い氣になッて、「よし、來た。」とサッと翼を擴げて飛上り、カア、カアカアと啼いて見せた。

田螺は素早く泥の中へ、もぐりこみながら「好い聲だ〳〵。馬鹿て、間拔て私に欺されたから、尙更好い聲だ。澤山獨て自慢してゐるが可いよ。」と嘲ッた。鴉は憤ッて急いて飛下りたけれども、モウ駄目てした。田螺は泥の底深くもぐりこむで了ッて、鴉の嘴が屆きませんでした。

子供と長蟲

久津見蕨村

▲秋になつたとは云ひながら、未だ中々に熱い。梢に蟬が啼いて野にも山にも雛草が青々としてゐます、其間にニヨロニヨロと出かける皆さんのお嫌ひなものが未だ幾干も居るやうです。

▲西洋では此皆さんのお嫌ひなものは、第一に女に呪はれるものだとしてありますが、また一方から云いますと狡い狡猾な知惠のあるものだともしてあります。知惠があるか狡猾だかそんなことは知りませんが、我國でも呪はれることは慥かです、呪はれると云ふよりも寧ろ恐ろしがられると云ふ方です。

▲此蟲の恐ろしがられるのは、重もに都會の地です。都會の地の奧さんや娘さんやは蛇が出ると誠に大變です。顏の色を變へて大騷ぎをやられる。所で都會の地の子供は多くは之に見習つて蛇を怖れます。田舍の子供のやうに夫れを捕まへて玩弄にすると云ふやうな勇氣はないのです。之が都會の子供が動もすれば物怖をして弱蟲、意氣地なしとなる一つの原因のやうに想はれます。

▲蛇を玩弄にすると云ふことは、隨分野蠻な話て、且殘忍な性を養ふことにもなるやうですが、また高が一匹の蟲を怖れてそら蛇だ〳〵と騷ぎ廻はるのは臆病千萬なことて、殊に男の兒としては決して褒めべきてはないと想ひます。

▲ですから子供衆のある家の御婦人方は夏の注意の一つとして蛇に對する態度を定めてもらひたいものです。夫に就ては蛇に對する知識を養はれたいのであります。と申しまして何にも動物學者のやうに、蛇に就て細大漏さず研究しろと云ふのではない。蛇の種類の大體のことを知つて、毒蛇と無害蛇との區別位は認めて頂きたいのです。

▲さうすれば蛇を見ても、無暗に怖がることはありますまい。隨て子供衆までに蛇を無暗やたらに怖がる習慣を附けるやうなことはないでせう。

▲そんなら如何な蛇が毒蟲であるかと云ひますに、先づ頭の丸い形をしてをるもの、例令は俗にアヲダイセウと謂ふやうな類は毒蛇てはなく、頭の三角なりになつて居て、兩方の頰が膨れてをるもの、例令ばヤマカヾシと謂ふやうな類は毒蛇だと動物學者が申してをります。

▲ですから御婦人方が蛇を見て、ア、厭な奴、ア、恐いと云つて逃げる所をチッと落付て其頭を見て頂きたい。そして毒蛇かどうかを見極めて、夫れが毒蛇なら近付てはならんと靜に子供衆に諭して下さるやうにしたい。立派な人間が蟲一匹の爲にビクビクするのは例令女でも餘り褒めた話てはありますまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鳩吹

鳩吹や藪山口のつふら家（蕪村）

松原至文

一　秋聲

ふと目覺めて我は露のこぼるゝ音の、さばかり滋きかとあやしみぬ。板に米をまくらむやうの、さゞめかしき響き、友は都に遠き多摩川の里の、秋聲の來れる早くもある哉とつぶやく。

げに都は露くさの花咲くころ、こゝは千山の木の葉すでに黄ばみては飛ぶ秩父の里の宿、白日は汗と塵との旅衣を染むる多ほけれど、暮れては蟲のこゑしげき村はづれ、宿かる頃のひや〳〵と素足にあたる風の冷たさ、かばかりの搖落の聲の、廂に落つるも、やゝ早くとも道理かなと、うなづきて瞼あはせぬ。

されどその聲は、夜もすがら止まざりき、雲取峠の紅葉を染むる秋の神の、都に夜をはする飛行の聲にあらずやとまた想ひき。

明けの朝、瀬戸に嗽に出づれば、萩のうねりの朝寒の風にやゝ長く、葉末の露の紫匂ふ美しさ、さて夜べの聲はこの廂窓のあたりなりしよと見まはせば、栗の木の、枝を低く垂れて、朝風になほ實のれる毬の、さら〳〵と紙障子窓をなづるなりき。

秋聲、われはかゝる趣多き秋聲をきゝたること前後になし。

二　雜木林

雜司ヶ谷は畑多く、森多く、殊に雜木林多かり。

夕日の影のさしかはす梢、垂枝を透して草にこぼるゝころ、筇を引きつゝ其處ともなくそゞろありきする、興多し。名も知らぬ鳥の聲ふと耳もとに起りて、翶きし去りし後の四方の靜けさ、試みに足もとの小石を履歯にければ。かさこそと枯葉堆かき中に音して、栗の實のはじけて落ちたるにあらずやと疑はる。

小流れ、花畑、清水、大きやかなる石、柔かき草原などある毎に、立ちとまりて休むもよし。

林の開けてさゝやかなる小路、野中なる一軒立の百姓小屋に通ずるあらばそを辿らむも妙、前の小川には必らず老婆のうつむきて、餘念なく布あらへるを見む、心づけばその手紅く、その顏も紅く、かむれる手拭も榮ゆるばかり紅きに、ふと眼をあぐれば、西の空、雲爛れて炎火柱、朝々は透きて見ゆべき秩父の山々も萬條の光線にかぎろひて、地平線、雲より遠し、顧みればわが佇立せる影、長く後ろに拖きて、黍畑の五尺もあらむ穗先の、あか〳〵と燃ゆるが如く夕榮えて立てるを見む。

もと林に入りし路にかへるころは、山森れて野は黄昏のすゝきざわ〳〵、足下おぼつかなく、蜩弱く、蟲多き、目だちて露のしげきをおぼえむ。

雜司ヶ谷に移り住みて、このごろの吾家の富の饒さよ。

▲亡き父　大阪　富永才子

父君此世を去り給ひてより、はや十あまり七たびの春秋を重ねぬ、おのれいまだ幼かりし程に、御顏をだにも覺えねぞ本意なきや、あゝ、懷かしき君が御魂は今いづこ、玉とたゝへし秋草の露の、もろくも風に散りはてしは、菊月の三五の日、有明の月に蟲の音さえたる曉がたなりと聞く。今年もまたやがて來るべき憂愁の日を迎へざるべからず、悲しい哉。

▲選者曰　哀れ深し

▲夕立　岡山　吉岡政江

眞赤な夕陽が西の木立に遮られてから、今宵の床の物にと花壇で夕顏の一鉢を手入れして居ると、いつの間にかどんよりと蒸し暑くなッて來たので、空を仰ぐともう一面の黒雲、手桶もその儘大急ぎで駈け込むと、追ッ駈る樣に大粒の雨がひとしきり、時々白い稻妻の光りが物凄く占め切ッた戸の隙間を漏れて來る、雨後蕭洒たる小庭の鉢に眞白な夕顏が一輪、蘇生る樣な涼風に清香を送ッて來た。

▲選者曰　讀む者また甦へる樣な氣がする

▲夏の夕　京都　藤内菊枝

紅深く棚引きし夕燒の雲、いつしか夕の嵐に吹き消されて、薄らぎ行く大空に若光る新星三ッ四ッ現はれて、さしも長き夏の日も漸く暮初つ、扇片手に出て見れば、袂吹く夕風いと心地よく、遠寺の鐘靜なる闇を破りて微に響く彼方をながむれば、池の畔なる垣の夕顏一入白し。

▲選者曰　美しく描かれたり

米田貞節子

▲歸省の朝　秋田　西村智賀子

姉さん、姉さん、と淸い涼しい聲。夢より醒めて見れば、山百合の花一束手桶にさして竹椽にあり。青葉の峰より吹き下す風に、香り室に滿つるも嬉しや、されど、妹が夏野をめぐりて手折り來りし心に較べては及ぶべくもなし。

▲選者曰　羨ましき姉妹よ

▲涙痕錄　愛知　石川類子

八年前生れし孫、妹の許に養ふ事と成りぬ、二親の慈しみ大方成らず、すか〳〵敷ら生立ち、學び舍に通ひ、學びの道も數多の兒に後れず杯聞くも嬉しう侍りしに、此度病みて常無き風に誘はれしこそ哀れなれ、先つ日妹かり行きし折、馬なへて遊びし姿の忘られて、涙に袖のひぬ間に三七日とも成りぬれば、花果物杯供へ、御燈明つけて靈祭りしける、八年の間慈しみし二方の心やいかならん。

▲選者曰　一讀涙千行

▲鞄の獨言　東京　中隈富士子

暑いので私も此頃は中々忙しい、今日も旦那樣のお伴で坊樣孃樣お望のボンボン、餠菓子、玩具、奥樣へは枝豆、鐵鍋鑵切、こんなものを苦しい程つめこまれて鎌倉へ着くと、坊樣孃樣皆なて私の廻りを取卷いて大歡迎、アヽ磯松風が、ポン〳〵も、おやマアお珍らしいよく實の入ッた枝豆と、中の物を取出されると是で今日の私の役は濟むだが、又明日は此方の御不用物を入れて東京へ。

▲選者曰　愚痴を云はぬ所が賴母しい

▲里の夕　京都　磯谷澪子

遠寺の鐘かすかに響きて、蚊火の烟薄れ行き、雲收り、風靜かに、香り高く淸き心を見せて咲ける夕顏の椽に、父は晝の勞を濁酒に慰して秋を語る折、幼兒の甘き乳と、愛とに充てる母の胸に眠る時、夕月淡く、柿の葉越しに笑みて出てぬ、噫々、平和なる此樂園、美なる此里の夕暮、都に住める人誰か能く此眞趣を解せむ。

▲選者曰　才氣横溢

▲そゞろごと　埼玉　森田竹子

元より花も實も無き農家に生れし吾は、朝夕さゝやかなる草の屋に起き伏して、書學糸取り紡ぎ衣裁縫ふ業に餘念なく、語らむに友もあらぬ佗しさ、しかはあれど自然の妙は有難く、茲にも四季は廻り來て、春には春の樂みあり、夏には夏の趣ありて、世は中々に捨難ものや。

▲選者曰　されど君は吾が最も敬服する能文の人

▲濱風　京都　花輪余志野

袂を吹き返す夕風淸々しく、とみに秋立ちけるしるしも見へていと嬉し、見れば昨日まで雜踏を極めたる高師の濱も、日ざかり過ぎては汐あみする人影よふやく減じて、磯邊をあらふ波いと淸く、其名にそむかぬ實景をめでむ好時期とはなりぬ、げに心地よき此夕暮よ。

いさり火の早ふたつみつ見へそめて夕日落たる濱風すゞし

▲選者曰　初秋の氣身にせまるを覺ゆ

立秋

岡山　吉岡まさえ

吉備の大野に秋立ちて
そが落寞の夜の色
風は淅瀝豐かの野に
濃き緑なす波打たせ
月は蕭殺の氣を帶びて
ゆらぐ白露星の如
夜寒を告ぐる蟲の譜も
こゝ束の間の玉の緒や。

▲うしろ影　埼玉　水野淑子

小雨そぼふる夕間暮れ
門に物乞ふ聲のあり
見れば六十路を越つらむ
曲りし腰を屈めつゝ
無言に拜むその姿
賴る子もなく親戚なく
路頭に迷ふ嫗ぞと
胸塞がりて聲出でず
我も無言に飯結び
黄金に代へて與ふれば
喜び歸へるうしろ影
運命拙き身の果か
道にそむきし報ひにか
その越方は知らねども
餓て倒るゝ行末を
思へば哀れ我等とて
明日をも知れぬ運命の
神の心をいかにせむ
玉の臺も何にかせむ
黄金の山も崩るゝを
たゞ世に朽ちぬ礎は
博愛衆に及ぼせと
敎へ玉ひし詔かな
敎へ玉ひし詔かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹告

弊紙は毎號、其の掲げたる記事につき、讀者諸姉が
一善き教訓なりと感じた記事
一利益を得たと感じた記事
一善く書き善く詠まれたりと感じたる短文、和歌、俳句、新體詩
等を承はり、編輯上の參考として掲げ度し、御通知はハガキにて結構
本號に對する締切日　九月十五日

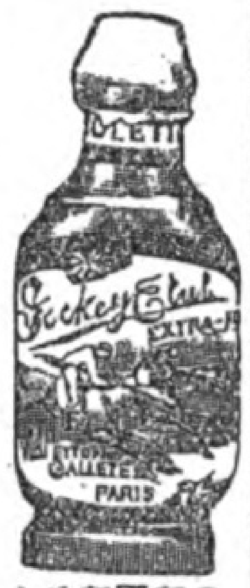
第百十號に對して

▲善き教訓なりと感じた記事
ゲーテの要(原文學士)　東京　久保やす子
月の訓(桑田竹子)　東京　瓜生保子
嶋の花束(三島霜川)　宮城　鈴木よし子

▲利益を得たと感じた記事
半ヶ年の家計(上野芳子)　熊本　齋藤作子
日本婦人觀(江戸靜川)　京都　渡邊かめ子

▲善く書き善く讀まれたりと感じたる
短文(渦中けい子)　兵庫　水島榮子
和歌(長鹽範子)　東京　後藤くす子
短文(阿部さゐ子)　岡山　寺田勝子
和歌(伏島たき子)　東京　久保やす子
同(長井うた子)　臺灣　田中美代子

ケーバ香水



●小瓶廿五錢　●大瓶壹圓
◎賣捌所は全國到る所にあり御買上りを乞

●●壹圓の舶來石鹼よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す
●●千種以上ある洗粉の中にもクラブ洗粉のみは石鹼に優れる特點あり

總代理店　總輸出入雜貨化粧品問屋　中山太陽堂　本店　支店
●内外各地の信用ある小間物店化粧品店及吳服店にて販賣せられつゝ有之候間御便宜御用命相成度候

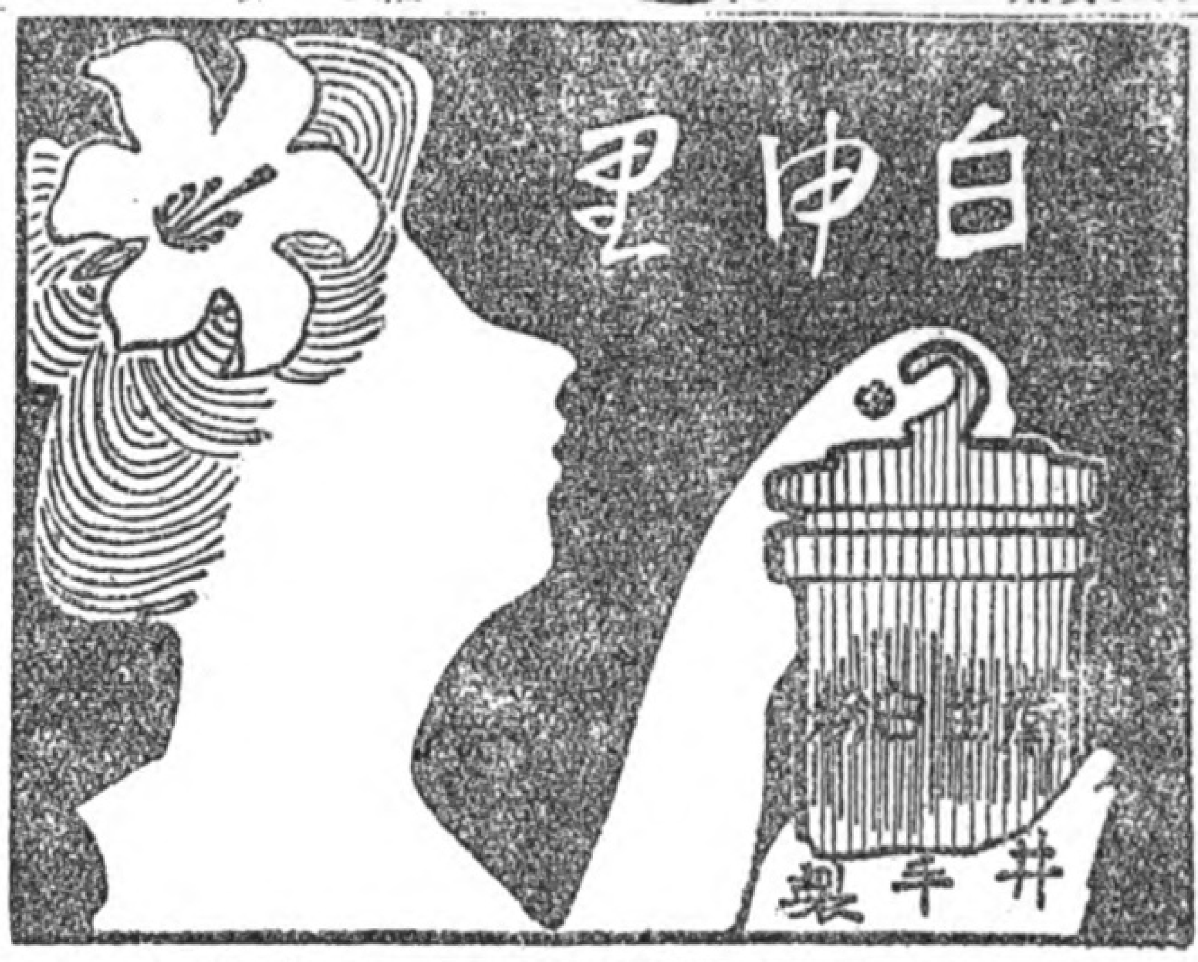
家庭に有益なる發明品

東京裁縫女學校、和洋裁縫女學校、日本女子大學校裁縫科に於て御用を蒙りたる

専賣特許　蒸溜こて

本器は蒸溜の力を以つてのすこと故●キリを吹く面倒なく●洋服地絹布縮緬木綿の別なく實に利き目よろしく●少しも地質を損ずる憂ひ無く●あせしみホコリ等は蒸溜と共に發散し消毒の用を辨ずべし
●體裁は全體ニッケルにて頗高尚優美●構造最完全にして永久の使用に堪ゆ
(家庭用中形金三圓八十錢、携帶用小形金三圓四十錢)
(小包料中形廿錢、小形十錢、代金引替十錢増し)
御一報次第說明書送呈市内は參上御供す●市内各陳列所勸工場は勿論五二共進會にも出陳致居候に付御一覽希上候
●三越吳服店雜貨部を初め各地有名なる吳服店雜貨店及金物店にて販賣いたし候

發賣元　東京市麴町二丁目　虎屋號　千歳商會

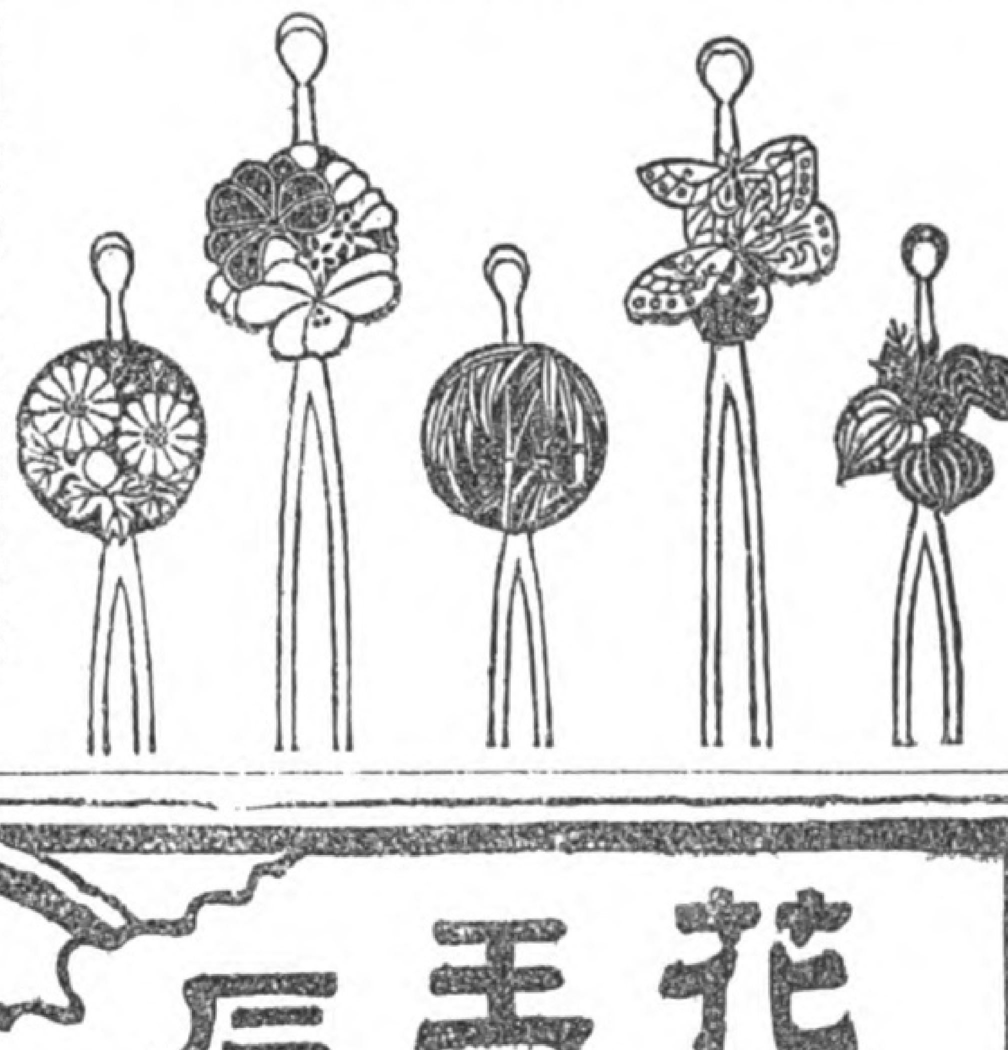


白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる
白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

松みどり香油

本香油は品質の善良、香氣の優雅なる、世上幾多の香油の比にあらず、交際社會に活躍する紳士貴夫人令孃は一日も缺く可からざる逸品なり
定價　大壜四十五錢　中壜貳十錢　小壜十二錢
製造本舗　東京上野廣小路　山崎屋油店　電話下谷一七三五
販賣店ハ各化粧店にあり

新案平打簪



○價甲種貳圓五拾錢　○乙種貳圓廿錢
こたび發賣の平打簪はこれまでの金銀彫刻亦は寶石入などの品と大ひに其の趣きを異にし總て淡泊なる純銀にて模樣は嶄新なる草花又は古代模樣の粋を抜きたるもの十餘種を撰み之を漆工大家に囑して夜光貝青貝を用ひ蒔繪を合作せし最とも優雅なる品なれば時節柄丸髷銀杏返し等の御挿料には至極適切のものに候に付澤山御用命あらんことを

白牡丹本店

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五五一番

開業廣告

私儀多年獨逸國留學中ノ處今般歸朝眼科專門開業仕候
神田區連雀町十八番地郵便局前
ドクトル　宇良田唯子

衣服洗淨　玉川

◎蚤其他の害虫を驅除し有害黴菌を自ら消滅す▲販賣店は至る所にあり
一名シヤボンイラズ
東京市日本橋區本町三丁目十一地番
合資會社　玉屋商店支店
電話—本局一七九四番

(ラクダ印)

(麝香石鹼)
ラクダ印麝香石鹼は高貴麝香に優すべきミレーの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至るまで沁うつり香いたし五日間は馥郁としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す
○定價大形廿錢　小形拾錢
●熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
一手大賣　近來類似品有「ラクダ」印と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地　井上太兵衛

花王石鹼

品質善良　衛生ト經濟ニ適ス
本舗　東京　長瀬富郎
米國聖路易萬國大博覽會　名譽銀牌受領
關西代理店　大阪　大崎組商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大口鯛二氏選　瀑布

天

雪よりも白くさらせる布引のたきのほとりは夏なかりけり　兵庫　中村益子

▲評　布引の〔歌〕いと多かれど此の歌より白く洒したるが先目にとまり侍り

地

松風のをり〳〵雲を拂はすは音のみ聞かん峯の大瀧　北海道　西久子

▲評　歌にかくれあらはれする瀧のさま見るやうなり但し初句は山風のとせん方優るべし

人

雪と砕け花と飛散る瀧つせに夕日美しにしのかけはし　岡山　仲田磯子

▲評　げにうつくしき虹の光にこそ

佳調

○やくかこと照りつゞきたる夏の日に瀧の糸さへやせほそりけり　三重　小島駒子

○嶋山のみねより落つる瀧津瀬は雲に聲ある心地こそすれ　青森　田島愛子

○松風もひゞきをそへて岩根より落くるたきの音のすゞしさ　京都　金澤枚子

○夏もなほ衣手寒し瀧井よりみなぎりおつる峯の大瀧　大阪　富永才子

○たゝすめる袂もゆらく心地して雲より落つるきりふりのたき　函館　日向克子

○山姫の手引とみえて天雲のひまよりおつる瀧の白糸　山形　阿部さゐ子

○しらくものかさなる奥になる神のとゝろく如き峰の大瀧　長野　高橋きよ子

○夕こりの雲に聲ある心地してちひろを落つる峯のたきつせ　群馬　木暮千代子

甲

○日さかりは峰の松風音たえてひゞきいやます布引のたき　茨城　綿引馨子

○涼みにと來る人多し名に高き音羽の山の瀧の白糸　愛知　市橋幾子

○人はみな來てや見るらん布引のたきのひゞきの世にたかければ　靜岡　彦坂済子

○瀧の音谷のなかれに心まであつさ忘れて涼しかりけり　東京　小島粋子

○うちあふく高嶺にたきの音はして道のあつさも忘られにけり　埼玉　水野淑子

○たゝすめは夏尚寒き大瀧になちのみ山のむかしをそおもふ　東京　長鹽錠子

○夏山のみとりの中のしら瀧はいともさやかに見えわたるかな　新潟　青木美家子

○おり出すその水上は白雲のはたてにつゞく布引の瀧　岡山　武田須磨子

○那智の山とゝろきおつるたきつ瀬のしふきのきりに虹たちわたる　東京　龜井爲登子

○白雲の中より落つる心地して夏も身にしむ那智の大瀧　北海道　安藤喜美子

○みるかうちに水嵩もまさる心地しておち來るたきのすさましきかな　横濱　鈴木まつ子

○月姫のみそきと見えて玉簾の瀧にくたくる在明のかけ　東京　五藤敬子

○天の川なかれの末か雲井よりとゝろき落る那智の大瀧　仙臺　渡邊道子

○天地もゆするはかりのひゞきして雲より落つる那智の大瀧　仙臺　渡邊作子

○鳴る神の音かときけは雲ふかきみ山にひゞくなちの大たき　青森　鈴木安子

○山まつの梢にかゝるしら糸は天の河よりおつるたきかも　靜岡　竹内幸子

○流れての水とも見えす白糸をおりてさらせる布引の瀧　靜岡　青木翠子

○みなもとはいつこなるらん天の河下ろとはかり見ゆる瀧つ瀬　青森　佐藤楓子

○松風のしらへは絶えて瀧つせの音のみ聞くも涼しかりけり　滋賀　平松いと子

○すゞしくも音きこゆなり岩か根に碎けて落る玉たれのたき　横濱　小島京子

○荒神のこもりますらむ物すこくとゞろきおつる峰の大瀧　京都　花輪余志野

○岩か根も裂けよと許りおそろしくとゞろき落る那智の大瀧　京都　磯谷澤子

○此まゝに踏らんも惜し見ぬ人のつとにうつさん美しの瀧　宮城　金子たま子

○岩たゝく瀧の白糸くりためておらまくほしき夏衣かな　山口　末田竹子

○山たかみ雲より落る瀧津瀬は天の川原の末にやあるらん　京都　池田美登子

○瀧つせのすさましくこそ響きけれなと音なしと名には立ちけむ　東京　河邊和歌子

○雲間より落くる瀧のみなもとは草の根ひたす清水なりけり　東京　森川幾子

乙

○近よりて見るもすさまし岩つほに瀧の白糸うつにまくらむ　岡山　山本龜子

○[illegible]らめも知らて過すらんちりなき風の布引のたき　長崎　田中靜子

○白雲の棚引く山のふもとをはおりゐむかふす龍頭の瀧　東京　三宅ひさ子

○大君の御代なかゝれとくりかへし限りしられぬ布引のたき　仙臺　阿部鈴子

○こゝちよく朝きり晴れて背戸の山たきのひゞきもさやけかりけり　群馬　伏島たき子

○俄雨烈しくなりて箱山の岩間を落つる瀧の白糸　埼玉　森田竹子

○名にたかき音羽の瀧のいと涼し心も洗ふ清水の寺　京都　若山たきゑ

○をたまきの糸くりかへしるはたを雲間にさらす布引のたき　青森　鈴木きく子

○夏姫の白き玉裳を打かけていとも涼しき那智の瀧つせ　三重　南部種子

○ふてとりてかき得ぬ我そうらみなる瀧のけしきの目にはのこれと　大阪　佐野直子

○木の間よりかすかに見ゆる白雲は音も涼しき夏のたきつせ　三重　莊司種子

○巌か根に碎くる瀧の末見れは尾上の松に雲そ棚引く　青森　吉田やす子

○音羽瀧清き三筋のほそ〳〵とたえすしらふる聲のすゞしき　京都　松宮春子

○千代ふとも世にかくれめや舞老の瀧のひゞきは雲の上まで　京都　松宮菊枝

○山深み人のゆきゝも白雲の崩れておつる大那智の瀧　岡山　寺松政子

○ふみしたく岩根くたけん心地して見る目めすこくおつるたきつせ　函館　龍岡とし子

○天地もくたけむ計り音はしてしふきにくもる那智の大たき　函館　佐多益子

○岩はしろ瀧は水とも思はれすみたしかけつる白糸のこと　廣島　富樫つる子

○溪々の千すちの水のあつまりて世にもとゝろく山の瀧つせ　岡山　貝原わき子

中村益子筆蹟

○山姫が手引の糸の瀧ならん絶えす流れを海にまかせて　岡山　貝原壽惠子

○雨にやと思ひて見れはさめなる假寐の宿に響く瀧津瀬　京都　清水今子

○松風のしらへのふしに通はせてすゞしく落つる白糸の瀧　栃木　植野秀子

○山姫か山のはた手におりかけてさらすかと見ゆ布引の瀧　長崎　萬原梅香

○箕面山楓の若葉おし分けて落つるもきよし瀧の白布　兵庫　下岡松枝

○松風に調へあはせて音羽山すゞしく落る瀧の白糸　愛知　木原良子

○天の下に名を轟かすうた人もたゝ眺むなりナイヤカラの瀧　青森　留目うた子

○高嶺よりみなきり落る瀧津瀬のしふきにぬるゝ我たもとかな　三重　階戸常子

○岩かけに誰かおりかけし布引の瀧のひゞきになつは流れて　京都　難波眞久子

○天下る神の道かも雲とます峰よりおつる那智のあら瀧　東京　西川麗子

○けかれたる浮世のちりを洗ふへく二荒の山におつる瀧津瀬　東京　黒岡鶴子

○霧間より亂れもやらす一筋に誰か引つらん瀧の白糸　福島　横川綠子

○せき入て落つる涙も瀧津瀬の岩にひゞきてあはれそへけり　岡山　西村眞子

○白瀧のなかれの末をくむ人のこゝろはいかに清くあるらむ　靜岡　萩原さだ子

○靜かなる深山の奥に世のちりをさけて清けくおつる瀧かな　青森　田島正子

○ちりの世をしはしのかれて緑こき日光の山にたきを見るかな　東京　藤田あつ子

丙

○徒の世のかゝみとならんふたら山瀧は名のみに切もかよはして　千葉　濱野米子

○丈夫の魂とや云はん一筋に瀧の勢の勵とそきく　東京　中山正子

○とこしへに細くも此末絶しまん行衛は何處白糸の瀧　東京　秋元小菊

○岩かとに落ちてちりくる玉水をつらぬきとむるたきのしら糸　山口　末田貞節子

○白瀧の詠めもあかぬ秋の日にけふも見とれてつい暮にけり　青森　佐藤くに子

○高峰より岩ほにかゝるしら糸のあやに涼しき布引の瀧　函館　神尾登女子

○今もなほ誰さらすらむ布引の瀧のすゞ風秋をおほゆる　神戸　山本幾子

○苔にそひ岩にせかれて落つる瀧の音高くして千代に八千代に　東京　伊矢野孝子

○岩か根の峰より落つる瀧つ瀬はくたけて散りぬ白玉の泡　靜岡　星見雄子

○山ふかく音するかたに分け行けは夏をわするゝ瀧の白布　東京　須田はん子

俳句　立秋

天　秋立や乳兒も添ひよきたき心地　三重　莊司種子

地　立秋や重そうに見ゆ蝶の羽根　東京　河合花子

人　立秋や岡は萬作濱大漁　青森　田島正子

くろ鳥の啼く聲や秋の立つ　岡山　仲田磯子

秋立や實りしいねのたるみやう　東京　藤田繁子

立秋や昨日に變る松の音　熊本　齋藤さき子

立秋や蟲の聲もにきはしき　廣島　小田八重子

秋立やよせてはかへす湖の波　山形　阿部さゐ子

吹く風の上にも見るや今朝の秋　京都　磯谷澤子

立秋や竹に夢りしかたつむり　東京　中山正子

立秋の三つになる子の咳かな　京都　若山たきゑ

瀬に遊ぶ魚のやせたり今朝の秋　岡山　青木夢英子

秋立ちて心も清くなりにけり　埼玉　森田竹子

草に吹く風も秋たつしるしかな　廣島　小田信子

何んとなく秋立つ朝や總心地　三重　南部種子

南さし雁の羽音や秋の立つ　青森　中澤なほ子

そよと吹く風ぞ身にしむ今朝の秋　靜岡　里見雄子

立秋やはき吹く風の下葉より　東京　三宅久子

立秋や小窓の中に蟲の一ツ　埼玉　水野淑子

雲の峰その儘にして秋立ぬ　愛知　市橋幾子

立秋や昨日の暑さかたりつゝ　三重　小島駒子

秋立やしたはしうなる高雄山　京都　清水いま子

立秋や心に響く鐘の音　青森　松尾あや子

立秋や箒き持つ手の寺男　東京　山田とく子

秋立や未だ青い葉のひらひらと　東京　藤田あつ子

朝露を蹈んて秋知る隠居哉　三重　山内せい子

七草は咲き揃はぬや今朝の秋　山形　芳賀ます子

秋立や温泉宿の朝したく　兵庫　谷口笑子

秋立や夜は蟲の音に廻めくり　群馬　伏島たき子

秋立や南にほの見ゆたつたひめ　新潟　佐野幾子

立秋の聲や涼しと買ふた虫　東京　秋元小菊

第卅六回作歌募集

題　秋冷

選者　大口鯛二氏

規定　一人一首繪葉書に認める事

優等の作歌は十月五日發行本紙上にて披露すべし

第廿九回短文募集

題　繪畫

選者　編輯局同人

規定　百八十字以下用紙葉書

優等の作は十月五日發行の本紙上にて披露すべし

第十七回俳句募集

題　月

選者　編輯局同人

規定　一人一句繪葉書に認める事

優等の句は十月五日發行の本紙上にて披露すべし

第十回新體詩募集

題　[illegible]

選者　編輯局同人

規定　成るべく短きもの用紙葉書

優等の作は十月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切九月二十日限り

發行所より直接郵送を受くる讀者諸氏に申上げ候

帯封にこの**盡**の字あるは前金切れの印しにつき直ちに前金御送り被下度願上げ候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

煉香油

東京 井善

編輯主任 文學士 下田次郎氏

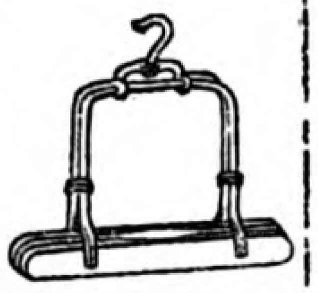
第參卷第九號 九月一日發行 定價 拾錢

女子教育

本邦婦人雜誌中最も程度高く歐米最近の婦人に關する論説を紹介し最も讀み答へあるもの

發行所 東京市神田區錦町一丁目 明治書院

實用新案 ヅボン シワノバシ具



頭髮肥料

最新輸入のヤボール毛生液

は獨逸ヤボール會社の製案にして是迄世にありふれたる如何がわしき者と全く其選を異にして多年幾多の實驗と改良とを經て製造せられたる者なれば其功驗の絶大なるは申す迄もなく香氣馥郁として最上の香水と聯か異なるなきは本品の特色とする所也

其他最も嶄新なる化粧品類各種

東京京橋區日吉町十八(電新二三六五八番)

直輸入商 一手販賣 玉利商店

登錄商標

羽おり紐 [illegible]

市内ハ御用命次第 [illegible]

伊竹組紐舗

電話浪花 [illegible]

定價表ハ御申越次第直ちに呈送仕候

最新流行 [illegible]

東京日本橋通り [illegible]

浪花一四四六

家庭之友

第四卷第五號 八月三日發行 (要目)

東京の生活と地方の生活と

其一 棚橋絢子 其二 大下藤次郎 其三 向軍治 其四 山路彌吉 其五 佐治實然 (以上五家の文)

舅姑問題と老人問題

家計六年間の實驗:竹蔭生

家政問答:羽仁もと子

夏の菓子五種:てい子

子供の遊び着:かをる

日本風と西洋風○借家住居に就ての感○先生とおッかさん○ソーダ水とミルクセーキ○夏のたのしみ 其他

材料豐富

▲一冊郵税共六錢○一年分十二冊同六十錢

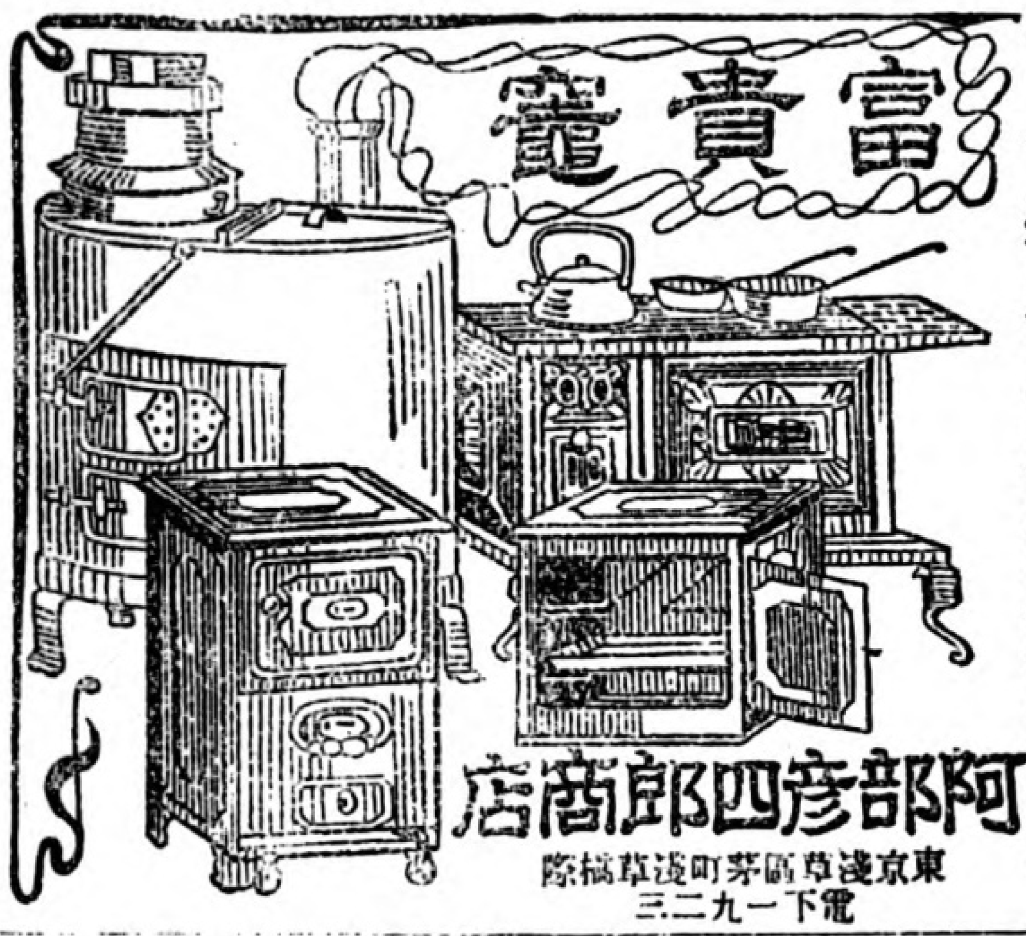
販元 東京駒込西片町十番地 内外出版協會

[illegible]赤毛の人に告ぐ

二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黄質を含めるものにて此の硫黄と液劑と毛中にて化合酸化硫黄となりて黑色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所 東京京橋本材木町三ノ四 岡田藥店



洋食器具類一式

特許 輕便料理ストーブ 一名改良テンピは

輕便で完全に料理ストーブの效用を爲す

實用新案テンピ 金二圓三十錢

特許テンピ 小金四圓五十錢 大金六圓

富貴竈 銅壺空焚漏り保險

商品目錄御一報次第進呈す

阿部彥四郎商店

東京淺草區茅町淺草橋際 電下一九一二三

登錄商標

齒科醫士富安晉先生方劑

紳士貴婦人用

美術 桐箱入

定價 壹個 金參拾錢

六個入一箱金壹圓八十錢

原料精撰品質純良

●菊盛齒磨は齒科大醫富安先生の多年實驗研究の結果配劑にかゝる世界無比の優等品なり

●菊盛齒磨は堂主自ら製造するものにして毫も粗惡の品を用ゐず原料純良なる事を保證す

●菊盛齒磨の特質は齒牙の汚物惡臭を除き齒患及口中諸症に著るしき效果あるものにして佳快の薫香を有し一度之を用ゆれば不快の念なく口中を清涼ならしむる衞生無缺の良品なり

□世界に高評を博しつゝある最高等の齒磨

●菊盛齒磨は發賣の日淺しと雖内外の諸賢御需用日に月に增加し御注文引きも切れざるは特に堂主が感謝する處なり

●菊盛齒磨は市內有名なる小間物店化粧品店賣藥店雜貨店及內外各地到る處の同業者に於て販賣致し候得ば何卒最寄にて御購求を乞ふ

發賣元 東京 京橋區新肴町 菊盛堂

北米合衆國紐育市 シンガー裁縫機械會社

東京支店 東京銀座三丁目拾貳番地

大阪支店 大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地

長崎支店 長崎大工町六番地

東京支店名古屋監督店 名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シャツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン專門の裁縫ん教授の爲に東京、大阪、横濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を參觀せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン裁縫專門教授

(規則書進呈、郵券封入御申込アレ)

東京麹町區有樂町壹丁目五番地 シンガーミシン裁縫女學校

大阪東區北濱二丁目六番地 シンガーミシン裁縫女學校

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新式 平圓盤及蠟管蓄音器械多數（御進物用蓄音器切手發賣）

蓄音器曰く 私ハ手もなく舌もなく又咽喉も持たずに尙諸君の御好次第に歌を唄ひ音樂を奏します

私ハ是と名のつく樂器ハ携へざれ共歌と同時に三味線笛鼓太鼓等の諸樂器を實物と些しも違はぬ音調に合奏し尙長時間の演奏に些しも疲勞致しませぬ

私ハ總ての外國の詞に精通し何れの國の言葉にても最も流暢に談話し又泣きもし笑ひもします

私ハ都會の演劇場にて興行を其儘御覽になると同樣の感覺を與へます

右樣の譯で御座ります故に軍隊の娛樂や家庭の御樂しみハ私を措て外にないと信じます

◉定價表歌目錄御一報次第進呈す

本店 東京市京橋區銀座壹丁目三番地　長電話新橋九七九

支店 東京淺草區並木町廿三、四、五番地　長電話下谷九八八
大阪南區順慶町四丁目　長電話東二四一四
福岡市博多下西町角　電話五〇一
北海道小樽區色內町廿一番地　電話三二三

三光堂

商品目錄定價表 御申越次第送呈

意匠斬新 くし、笄、かんざし、リボン、ヘーアピン、サイドコム

美術小間物商 三ツ井屋
東京市神田區須田町十番地 電話本局二〇七六番
支店 神田神保町東明館內 新橋ぎわ博品館內

堺枯川編輯 趣味ある教訓ある家庭の讀み物

子孫繁昌の話 原作は佛國最近の小說大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルネス

質素儉約の話 ゴールドスミスの第一の傑作たるヴイカー、オブ、ウエークフイールド

仁慈博愛の話 ストー夫人が無限の同情を注ぎたる奴隷談アンクル、トムス、ケビン

家庭夜話

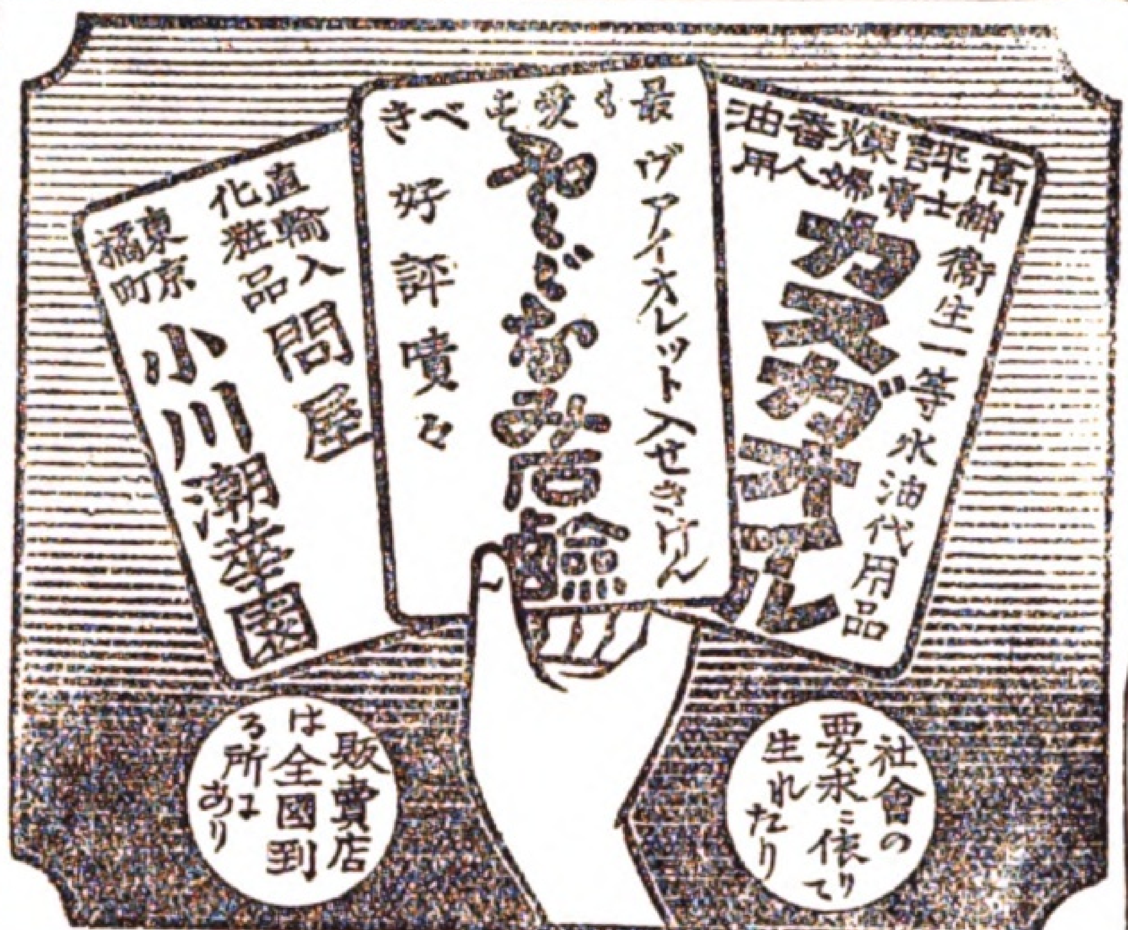
第四版 全三冊美裝合本定價金壹圓郵稅十錢 分冊各參拾錢郵稅四錢

堺枯川著 家庭の新風味 定價金壹圓郵稅拾錢

ワグネー原著 竹村文博士譯 家庭講話 定價五拾錢郵稅四錢

▲萬朝報評 家庭問題の喧しき今日最も有益なる良書たるを失はず譯文暢達解し易し

東京本郷駒込西片町 振替貯金第三五五五番 内外出版協會



○銀側両蓋之部 流行瓢手形
價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
價十圓半 同懸石卷上向アンクル
價十三圓半 同裏三枚懸石卷上向爪
價十四圓 米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半 米國中蓋付上等品

○金側両蓋之部 流行瓢手形
價三十三圓 瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓 瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓 米國製十八金中形紳士持
價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓 米國製18金形18紳士持

商品案內 無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

壜詰最上清酒

大日本優等清酒 世界長

御進物用は美麗箱入

世界長は內務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり
尙殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

◉無鉛高等化粧料

ピンク白粉

芳香は世界無類一度御試用あれ販賣は全國到る處に有

佛國パリー直輸入 倉田商店

此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば皮膚を滑らかにし其色を白くす

東京牛込 山本玉川堂

小町印 學生 袴

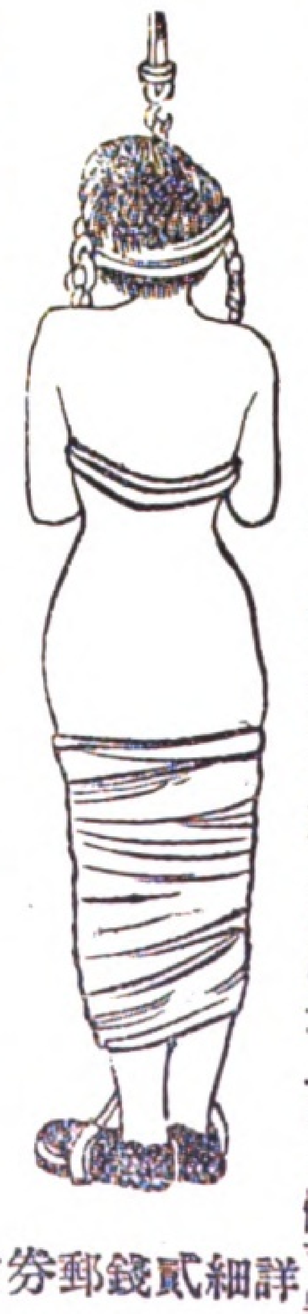
帝都唯一受賞袴 小町印學生袴
日本橋區彌生町 卸部 永井本店（電話浪花一八四一番）
神田區南神保町 小賣部 永井支店

めりんす友染

東京人形町通り

▲有効無害にして使用法も簡易に貴婦人には最上なる體育器械です

專賣特許 長身器（せいをのばすきかい）



▲神經衰弱を治し猫脊を直し腸胃を整ふる良好の室內運動器械です

詳細貳錢郵券を添へ申込あれ

東京牛込通寺町九番地 米國カーチレージ商會支店

愛國婦人記者 手島益雄著

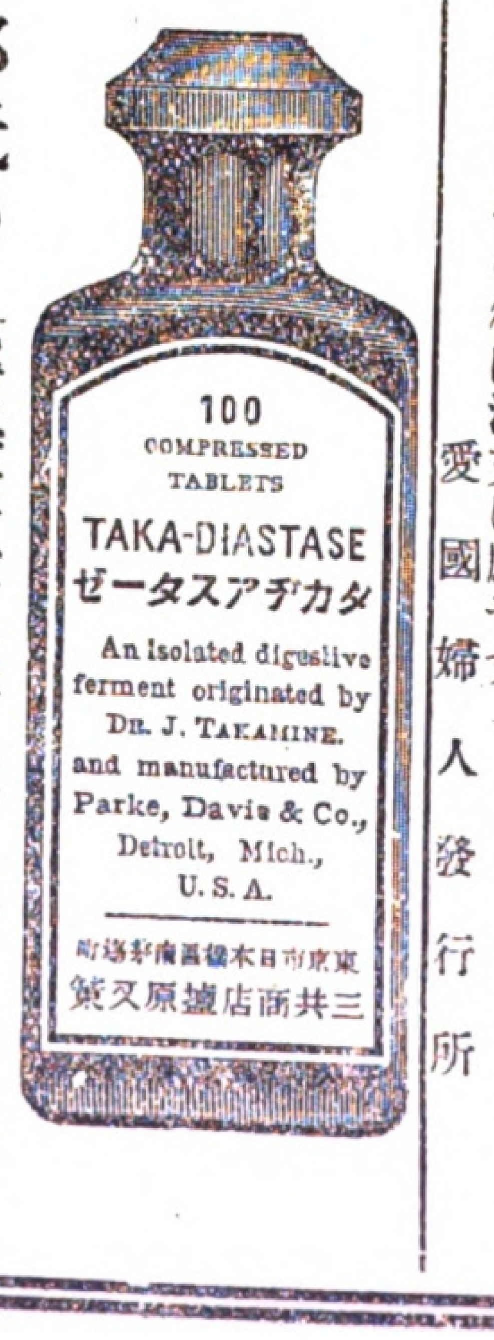
婦人の慰問使

好評第五版 一部金十錢

奥村刀自の滿韓旅行は恰も滿一周年となれり記念として發行せし本書は今尙幹事部より注文あるも殘部僅少につき賣切の後は注文に應ぜず

發行所 愛國婦人發行所

消化新藥



醫學博士 井上善次郎氏の實驗報告に曰く 胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

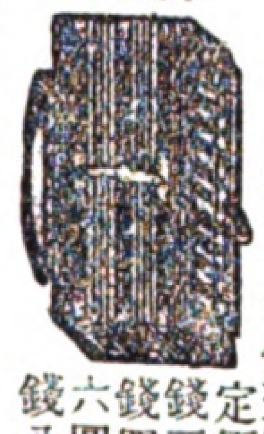
醫學博士 栗本東明氏の實驗報告抄錄 高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の效力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すると共に此種の患者に每に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

無師獨奏 紙腔琴

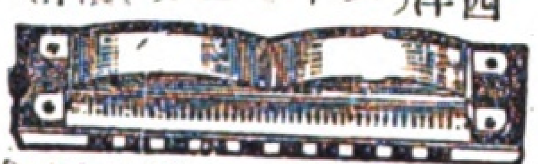
◎配用曲目二百五十餘種出來
◉定價 大形上製金十五圓 ◉同中製金九圓七十五錢 ◉金小形金五圓

舶來手風琴



定價三圓卅錢 三圓五十錢 四圓 五圓 六圓 七圓半 八圓 十圓

西洋橫笛（ハーモニカ）



◉定價金卅五錢 四十錢 五十錢 六十錢 七十錢 一圓 一圓廿錢 一圓五十錢 以上何

◎大聲蓄音器定價卅三圓 五十五圓 六十五圓
◎平圓盤發音器定價金廿五圓 卅七圓 金五十三圓 金八十圓

教育的 高等玩具 新荷着

◎舶來バイオリン新着 ◎西川製風琴

東京銀座三丁目二番地

十字屋樂器店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令嬢用

本品は無色透明さらくとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令嬢方に目下大に流行せる彼の束髮用として非常に高評を博しつゝあり
定價八十五錢、四十五錢、廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
東京日本橋區本町二丁目　發賣元　高橋初次郎　特電四一三番

女俳優マダム川上貞奴
御園みやこ

色を白く艶を出し顏の小皺をのばす西洋薄化粧料洗粉

ヤツコ

●定價一罐廿錢全國送貨四錢
●三罐美麗函入五十五錢同送貨十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書いた美本を添ゆ）

カール

毛を良くしくせと縮毛を直す東髮島田丸まげとも髮形をよくす
●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢
●三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢
東京神田區御成道田代町九番地　ヤツコカール日本一手發賣元　地球堂　田中丹治
◎ヤツコ、カールとも全國有名小間物店藥店に賣捌あり若し無くば代價へ送貨を添へ發賣元へ注文すれば急送す

金銀時計
宝石貴金屬
美術品
東京市[illegible]三丁目
大西時計店
電話[illegible]一六八六番

TRADE MARK
東京湯島切通下
ツカダヤ
電下一三二四

洋織物　裁縫物
毛布　敷物類
何なりとあり有まいと
御思召品も御尋下さい

最上醬油
キハク印
香
於聖路易博覧會　名譽大賞牌受領

キハク印
醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ハク）
東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

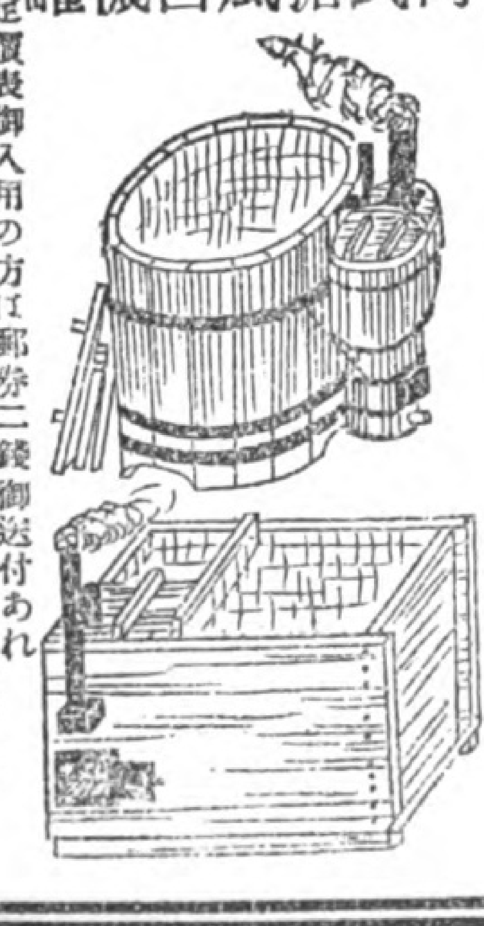
たんせきに淺田飴
空腹にめし

良藥にして口に甘し
定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す
本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

第五回博覧會賜褒賞

同式据風呂機罐



◎定價表御入用の方は郵劵二錢御送付あれ
製造販賣元　日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　名和商店　電話浪花千百七十七番
神田區和泉橋通松永町十八番地　名和支店
◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱

補血良劑
ヌポール無味肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
（電話本局特四一九　電話本局三〇一八）

第三回新學期開始

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

◎會員大募集
九月三十日迄に限りの申込入會金全免す、目下入會の好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を毎號附錄とします
▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

批評一斑
▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲毎日新聞評　米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評　高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評　講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼
端書にて申込あれば直に郵送す可し

◎東京神田南甲賀町　大日本淑女學會（電話本局三千四番）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醬油元祖

釀造元 下總銚子町 濱口儀兵衛
荷扱所 東京北新堀七番地(電話浪花二二五九四) 濱口支店

○宮內省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絕す
○日本一の釀造高也

大阪西長堀南通一丁目電特(西二〇〇五) 濱口出張店

ムスク香水 (大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢)
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目 ホーサン石鹸本舖
本舖 松澤常吉 (電話本局百四拾五番)

未だ本誌を見ざる婦人ありや

婦人世界

九月三日刊 第九號 一冊拾五錢 郵稅壹錢五厘 半年分九拾錢郵稅共 一ヶ年壹圓七十五錢

口繪
◎山階宮姫宮若宮殿下尊影 ◎花摘む少女 ◎湖畔の絕景 ◎名家新婚寫眞四組 ◎其他
◎彩色石版 中澤弘光 ◎彩色繪手本 跡見花蹊

◎東鄕大將の母堂 千古の大英雄は如何に育てられしか
▲母堂は如何に雄々しき決心の婦人なりしか……
▲母堂は如何に溫かき慈愛の婦人なりしか……
▲母堂は如何に堅き思慮覺悟の婦人なりしか……
▲母堂は如何に美はしき婦德の婦人なりしか……
▲母堂は如何なる健康の婦人なりしか……

◎寫眞は如何に撮るべきか
▲見合ひ寫眞は如何すべき
▲寫眞の註文は如何すべき
▲子供の寫眞は如何すべき

◎消渴は如何に豫防すべきか 醫學士 伊庭秀榮

◎弦齋夫人の料理法
△里芋の料理△油揚の料理△彼岸の御馳走△鰯の料理

◎初秋の育兒上の注意
△寐冷えの豫防法△食物上の注意 ドクトル 加藤照麿

婦人の日常生活法 村井弦齋
▲衣服は如何に着換ふべき
▲婦人は何を嗜むべきか
▲晩食は如何に用意すべき
▲食物の分量は如何すべき
▲食物の性質は如何が宜きか
▲食事の作法は如何すべき
▲食物は如何に消化さるか
▲水は如何に飲むべきか
▲菓子は如何に食すべきか
▲食後の含嗽は如何すべき

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 (郵便振替貯金口座參千貳百六番) 賣捌 全國書店

暑中御進物用
●ハンカチーフ 絹綿麻 各箱入
●クレープシャツ
●婦人小兒用帽子
●キャンバース上衣
●海水浴用安全浮袋
●新着英國製 更紗各種
●精巧舶來人形各種
●洋花リボンレース
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式
東京市京橋區銀座三丁目 伊勢與 三枝小賣店 電話新橋三九二七番

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
●品質佳良の肉類廉價に販賣候
●配達は迅速に且つ正確に致候
●滋養と風味の西洋料理調製候
●西洋料理出前は格別相働き候
●米店は精撰の白米廉價販賣候
●御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本鄕區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

日本橫濱市 金丸銃砲店
振替貯金口座四七二番加入
正價表及鳥獵挿込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新にて精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候
正價表は御一報次第郵呈仕候
振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても橫濱本店にて實價買取同一の便法あり
詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

實用新案登錄第貳九壹七號
HAIR——ROLLS U .S. Patent.
REGISTERED TRADE MARK

◎米國最新流行品◎
ヘヤロール (束髮前髮心)
▲流行の「エス卷」結に最も必要
▲輕き事「ハネ」の如く伸縮自在
▲頭部を冷して「フケ」を除去す
▲普通「ハリガネ」製に勝る數等
賣捌所 各地和洋小間物店
◎便利元結 ヘヤタイ は貴婦人用束髮元結にして一本あれば半年の壽命を保つ德用品

日本一手販賣元 東京市京橋區鈴屋町一番地 日加貿易商廛

カメリヤ洗粉
定價 瓶入十二錢 袋入五錢 小袋三錢
カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

發賣元 小林富次郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●色白く艶をだす

松澤ホーサン石鹸（大形一個廿錢 小形一個十錢）

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目 芳香藥種問屋 ムスク香水本舖 松澤常吉

各國帝室及ヒ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。

最モ盛ニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

婦人藥王 中將湯

子宮病 血の道 さん前 産後 のぼせ 頭痛 腰足冷込 下腹痛み 月經不順 白血 赤血 其他婦人病一切の特効藥

定價 三日分二十錢 郵金十五錢 二週分八十五錢 同廿五錢

本舖 東京日本橋區通四丁目 津村順天堂

支店 大阪堺筋大寶寺町南入

新公論は繁劇なる文明社會に最も歡迎せらるゝ英米の「評論之評論」に倣ひ有益にして趣味ある材料に富み健全なる家庭に必要の雜誌たるを認め候につき吾が愛國婦人の愛讀者諸氏に購讀御推薦申上候

愛國婦人發行所 手島益雄 江戸川靜

新公論

第二十一年第九號目次

家族制度戰勝の原因に非ず　板垣退助
煩悶と自殺及び厭世　柳澤政太郎
故國青年の渡米熱を排す　井上啓次郎
一國字と萬國字　南條文雄
救濟の必要なし　柳澤保惠
同情する勿れ　丸山通一
國字改良の副産物　本田増次郎
日米初對面記　べるり
南村閑話　島田靜根
新日本村雜記　篠原熊峯
田舍しるこ　宵柳有美
湘南避暑の記　龍北
自殺百種　響翁
歐米名流談　妖星
文藝時觀　林田春潮
短歌　渡過光風
新體詩　見玉花外
俳句　大谷鏡石
最新思潮　三十餘鶴
萬國語の歷史と現在　丘淺次郎
島田三郎と伊庭想太郎　暮村隱士
女子の職業と妊娠休職の制　宮川鐵次郎

▲定價一冊金拾五錢、六冊金八拾五錢、拾二冊金壹圓六拾錢但し郵便稅を要せす

▲廣告料一行金三拾錢一ページ金拾五圓

發行所 東京本郷區東片町百十一番地 新公論社

季節向き新柄物漏れなく取揃へ店内一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候
地方よりの御注文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御屆け可申上候尚ほ御註文御案內書は御一報次第呈上可仕候

三越吳服店

東京日本橋區駿河町

英語界の三大光明

如何にして英語を學ぶべきか 答へて曰く最良の方法は左の三雜誌を讀むにあり

執筆者 内藤明延 ▲九月十五日初號發行 ▲毎號懸賞問題あり

ABC

雜誌初學者の爲めの英語雜誌 中學二三年級程度の男女學生に適す 毎月一回（一日、十五日發行）

英學生

好評の英語雜誌 執筆者は山縣五十雄斯波貞吉 中學四五年以上の學生に適す 毎月二回（三日十八日）發行 九月三日第四卷第九號發行

右の二雜誌は編輯の方法全く嶄新にして記事は面白く挿畫は美、讀者は樂みながら英語を學ぶを得、毎號詳密なる註釋解答を附錄とするが故に獨學自修に頗る便なり常に本誌を讀まば大に讀書力を養ひ容易に英作文及び英譯の法を知り且つ文法發音を學ぶを得べし而して定價は一冊郵稅五厘半年分十二冊郵稅共四十錢 最 僅に三錢

東西雜誌

The East and West 布施知足編輯 英文文藝雜誌 ▲毎月二回十日廿五日發行定價 ▲一冊三錢半年分郵稅共四十錢

英米の新聞雜誌より我國人にとりて興味ある記事論說短篇小說奇聞珍談等を拔萃し且つ英米文壇の消息新刊美書の案内等を掲げ毎號詳密なる註譯を添へて讀み易からしむ英米の新聞雜誌に接する機會乏しき人にとりて最も便利なる雜誌なり

右の三雜誌中いづれかの適するものを選びて購讀せられよ英語を知らざれば時勢に遲るべし

發行所 東京神田區表神保町十番地 東西社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三三〇〇番 四一番 (特)三七番 一〇二番）
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町 株式會社 十五銀行 電話新橋（一三〇〇番 一五三〇番 三一九三番）
同日本橋區新乘物町 同 日本橋支店 電話浪花（一九〇一番 三二七四番 三五〇八番）
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

説明書ヘ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部ヘ御申込アレ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 日歩 七厘以下
小口當座預金 日歩壹錢
東京市日本橋區駿河町壹番地 合資會社 三井銀行本店
同深川區佐賀町一丁目卅二番地 深川支店
東京市日本橋區箱崎町三丁目一番地 合資會社 三井銀行箱崎倉庫
同深川區佐賀町一丁目卅二番地 同 深川派出所
私設保税倉庫并に普通倉庫に關する一般の業務精々御便利に御取扱可申候

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八九五番
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 電話下谷二四一五番 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四四二一番 浪花四五一一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當坐預金 百圓に付日歩 八厘
別口當坐 同日歩 壹錢
全國送金無手数料
其他銀行一般の業務併便宜ニ取扱可申上ル

季節模様 半ゑり帯揚類
○夏レースショール○裾模様け出し○帛紗
○夏ネキタイ○しぼり染兵兒帯○伊達まき
○長襦袢○襦袢袖○下締め○しごき○手柄
有効受賞まげ入○高等洗粉チエリー香入
○內國獨特
新橋竹川町十二 電話新二〇二七 本店 ゑり治
神田表神保町壹 電話本九五二 支店 ゑり治
新橋際博品館内階下 ゑり治出張店

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎
婦人科産科 榊病院
東京麴町三番町廿三（電話番町三九五）

內科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

婦人科 午前宅診
小兒科專門 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

産科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇
東京病院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

第廿五回 産科婦人科學講習
十一月一日ヨリ醫士ノ爲ニ開ク
東京日本橋區濱町參丁目七番地
楠田病院教室

內科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一鼎堂
京橋區南鍋町　秀逸社
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜舍
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳弖)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳弖入　金拾五錢　六弖入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上　金七拾五錢　金貳拾錢　普通　五拾錢　參拾錢　拾七錢　六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二

英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

陸軍省御用

木杯銀杯　定價表　御入用の節は御進附可仕候

東京市日本橋區室町貳丁目

木屋本店

漆器蒔繪商　林九兵衛

電話本局特九九七 一七一〇

改卷と共に大發展の本誌を見よ

日本の家庭

一冊定價金十一錢一ヶ年一圓十錢(郵稅共)

◉樂しき家庭を作らんとする人は健全なる子女の教育者たらん人は本誌を讀め◉

○必要以外の價値　記者
○空論と實行　山脇房子
○彼我の兒童　三輪田元道
○良習慣の養成　大村仁太郎
○我か家間取　星 つれ子
○お婆さん　尾上新兵衛
○よき良人とは如何　記者
○桂香日誌の中　福田琴月
○子供の讀書と遊戯　沼田笠峰
○あやまれる家庭　山浦きみ子
○妻の外助　福井しづ子
○婦人と書物　ふ く 子
○正しき時間　SS女史
○危險なる一時間　記者
○子供の西洋服の裁縫　松江美佐子
○溺愛人と利己的教育　櫻外歐客
○學校の模倣　倉田傳
○從順の養成　藤井しづ子
○にくまれ口　おみなへし
○和歌　三宅花圃選
○誌友くらぶ
○こども欄
△芳ちやん(上繪)
△星と花と
△こども會
○西洋菓子の製法　ゆうづき
○昔料理法　温古齋
○新刊紹介　記者

發兌　東京神田表神保町　同文館

大賣捌　東京早稻田同文館支店　大阪備後町寶文館　東京神田東京堂

東京日々新聞評　大好評

學習院教授　大村仁太郎先生著

家庭教師としての母

著者大村氏が女子教育兒童教育等に心血を傾注するは人の識る處なるが此書我邦の國情民俗を基礎とし支那歐米の慣習氣風を參酌し先づ婦人の本分は良妻賢母たるに在りと論斷し以下章を設け項を分ちて如何に良妻賢母たり得べきかの問題百餘條に就て解決を試む觀察穩健なるも男尊女卑の偏失に陷らず能く歐洲の事例を利用し來るも亦た我國情と相容れざるの論斷を試みず青年婦女教育の責任ある者は勿論既に家庭の母たる者之れより母たらんとする者齊しく一讀の價値あるべし

和裝全一冊　定價七十五錢　郵稅金十錢　美麗なる帙入十錢增

東京買物用達合名會社

東京市神田區代田町

▲當會社は地方に在て東京の物品を購入する人の便利を計る爲めに設立せし者也

▲當會社は東京に於て賣買する物品は如何なる物品にても買入に盡力す

▲當會社へ買入申込者は品名分量形狀品質色合使用向代金屆先を詳記するを要す

▲當會社は無限責任にして確實公平に廉價購買に勉め迅速に送達を爲す

▲當會社は運送費荷造費の實價の外手數料として買入代價の百分の二を申し受く

▲當會社は買入代金十圓以上の物品は代金引換小包他は前金申受となす

▲當會社へ電話注文の向は直に買入三時間內に東京市內は配達するの便法を設く

▲當會社は東京市內に限り電話又は葉書にて申込次第店員差出す事あり

從來當發行所へ物品購入方御依頼の向は爾後右會社に向つて御申込み相成度候也

愛國婦人發行所

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃なうして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品とし一授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮內省御用達　東京市下谷池の端仲町　玉寶堂　電話下谷(特九六五番 一二四四番)

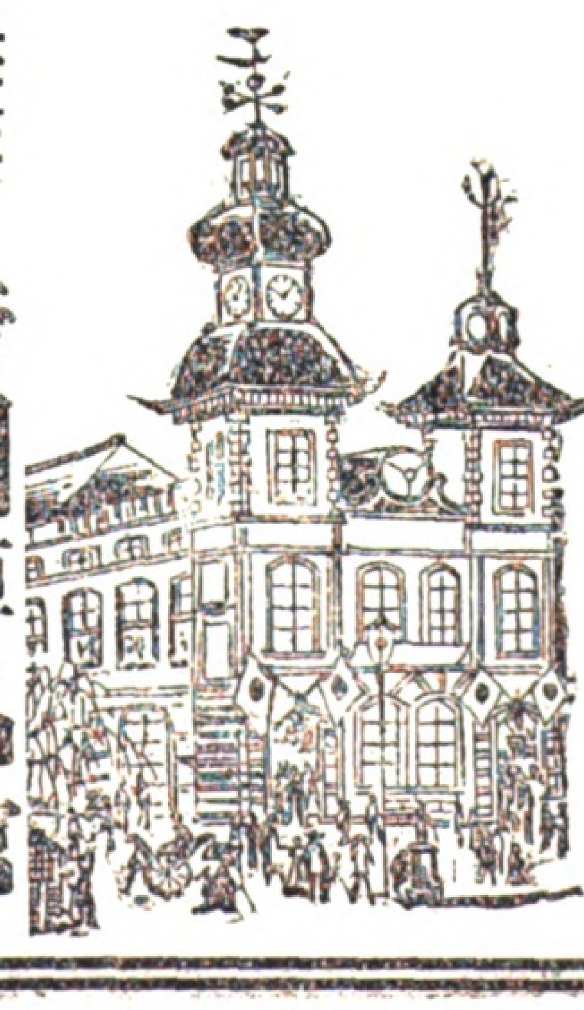
日本第一の大勸業場

(本場の特色)

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃て配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　電話新橋(一六五二 二二六一)



帝國博品館

各女學校御用

附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地　天野卯兵衛　電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

明治三十九年九月五日發行（毎月五日二十日二回）
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　東京麹町　愛國婦人發行所
印刷所秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年九月五日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人第百拾壹號附錄

北海道支部職員

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN